志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書(5)

－ 経営体育成基盤整備事業　野井倉下段地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 －

井手上B遺跡
上ノ段E遺跡
下段遺跡
和田上遺跡

2010年2月
鹿児島県志布志市教育委員会

序　　文

本市には多くの文化財が存在し、埋蔵文化財の包蔵地についても前川・安楽川・菱田川を中心に５００ヵ所を超える多数の遺跡が確認されています。特に前川・安楽川沿いに縄文時代の遺跡が多いことから、「縄文銀座」と称されるほどです。また一方で、志布志は古くから港町として栄え、交易の拠点、交通の要衝として繁栄し、麓地区には多くの武家庭園・寺院庭園が遺されています。これらの庭園のうち、天水氏庭園・平山氏庭園・福山氏庭園は「志布志麓庭園」として国指定名勝となり、鳥濱氏庭園と清水氏庭園は国登録名勝となっています。さらに、志布志をめぐる興亡の歴史を示す中世山城の志布志城跡も国指定史跡に指定されています。

この報告書は、志布志市教育委員会が主体となって、平成２０年度において井手上Ｂ遺跡、上ノ段Ｅ遺跡、下段遺跡、和田上遺跡の確認調査を行った成果をまとめたものであります。

確認調査の結果、和田上遺跡からは縄文時代早期・旧石器時代の遺物、下段遺跡からは弥生時代・古墳時代の遺物及び弥生時代と見られる遺構が確認されています。

この発掘調査の成果が、今後の研究資料として活用されるとともに、広く文化財愛護思想の啓発普及等、地域の文化財として活用され、文化財に対する理解を一層深めることが出来ればと願っております。

最後に、発掘調査に従事していただいた地域住民の方々をはじめ、現場における調査から出土資料の整理・報告書の刊行に至るまで御指導・御協力いただきました県教育委員会文化財課をはじめとする各関係機関、多くの先生方や関係の方々に深く感謝申し上げ、刊行の序文といたします。

平成２２年２月吉日

志布志市教育委員会
教育長　坪田勝秀

例　　言

1　本報告書は、経営体育成基盤整備事業の事業実施に伴い志布志市教育委員会が実施した発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、鹿児島県農政部の委託を受けて志布志市教育委員会が実施した。

3　井手上B遺跡・上ノ段E遺跡・下段遺跡・和田上遺跡の調査は、確認調査を平成20年度に行なった。整理作業・報告書作成は平成21年度に行い、鹿児島県教育庁文化財課及び鹿児島県立埋蔵文化財センターに指導・助言を得た。

4　挿図の縮尺は、各図面に示した。

5　発掘調査における写真撮影は出口が行った。

6　発掘作業の実施にあたっては、周辺地権者のご理解と地元作業員のご協力により円滑に行なうことができた。

7　整理作業を安野美子、山元弓枝（志布志市教育委員会生涯学習課文化財管理室臨時職員）で行った。

8　発掘調査・整理作業並びに報告書作成に際しては、以下の方々にご指導・ご教示を得た。記して感謝を申し上げたい。

　青崎和憲　吉岡康弘（以上　鹿児島県立埋蔵文化財センター）　桒川朋枝（鹿児島大学埋蔵文化財調査室）　内村憲和（大崎町教育委員会）

9　出土遺物の管理・保管は志布志市教育委員会で一括して取り扱い、今後文化財の啓発・普及に活用したい。

凡　　例

1　本報告書に用いたレベル数値は、鹿児島県農政部が提示した事業実施計画図面の数値に基づくものである。

2　本報告書の土色・土器の色調について、数字及び英字で表記されているものは、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖　2001年版」に準じて表記している。

3　遺物番号・各遺構番号は全て通し番号とし、本文及び挿図・図版中の番号と一致する。

4　周辺遺跡一覧に表記してある番号は「周知の埋蔵文化財包蔵地」として登録されている遺跡番号と対応する。

5　図面上にある遺物マークについては、下記のとおりに分類した。

成川式土器	▲	弥生式土器	△	縄文早期土器	○
石器・軽石製品	●	破砕礫・礫	□	破砕焼礫	■
炭化物	・	剥片	☆	細石刃	★
石核・細石刃核	＊				

7　図中の方位は一部で磁北を使用している。磁北の場合は「MN」と標記している。

8　土器観察表中に表記してある胎土の分類については、肉眼観察によるものである。胎土の分類標記は下記の略号を用いている。

「石・長」→石英・長石　　「雲」→雲母　　「角・輝」→角閃石・輝石

「礫」→小礫　　「赤」→赤褐色粒　　「砂」→砂粒

なお、「小礫」については直径2㎜以上の粒状のもの、「砂粒」については直径2㎜未満の粒状のものを指す。

井手上B遺跡・上ノ段E遺跡・下段遺跡・和田上遺跡 埋蔵文化財発掘調査報告書　目次

序文
井手上B遺跡・上ノ段E遺跡・下段遺跡・和田上遺跡の位置
例言・凡例

第Ⅰ章　調査に至る経緯と経過……1
第1節　調査に至る経緯
第2節　調査の組織
第3節　井手上B遺跡・上ノ段E遺跡・下段遺跡・和田上遺跡発掘調査の経過
第4節　調査の概括
第5節　調査の方法
第6節　層位

第Ⅱ章　遺跡の位置及び環境……7
第1節　志布志市の概要
第2節　地形的環境の概要
第3節　遺跡周辺の歴史的環境

第Ⅲ章　確認調査の概要……15
第1節　確認調査の概要

第Ⅳ章　井手上B遺跡・上ノ段E遺跡の調査……17
第1節　確認調査の概要
第2節　確認調査の成果
第3節　確認調査の結果

第Ⅴ章　下段遺跡の調査……23
第1節　確認調査の概要
第2節　確認調査の成果
第3節　確認調査の結果

第Ⅵ章　和田上遺跡の調査……30
第1節　確認調査の概要
第2節　確認調査の成果
第3節　確認調査の結果

第Ⅶ章　和田上遺跡出土の旧石器時代遺物について……39

第Ⅷ章　調査のまとめ……42
第1節　下段遺跡
第2節　和田上遺跡

図版
報告書抄録

挿図

第Ⅱ章
第1図　周辺遺跡　出土遺物……8
第2図　周辺遺跡位置図……9
第3図　井手上B遺跡・上ノ段E遺跡・下段遺跡・和田上遺跡遺跡位置図……14

第Ⅳ章
第4図　井手上B遺跡　確認調査　1T　遺物出土状況図及び土層断面図……17
第5図　井手上B遺跡　確認調査　トレンチ位置図……18
第6図　井手上B遺跡　確認調査　1・2・3・5T土層断面図……19
第7図　上ノ段E遺跡　確認調査　トレンチ位置図……21
第8図　上ノ段E遺跡　確認調査　1T　土層断面図……22

第Ⅴ章
第9図　下段遺跡　確認調査　1T　遺物出土状況図及びⅢ－b層上面遺構検出状況図……23
第10図　下段遺跡　確認調査　2T　遺物出土状況図及び土層断面図……24
第11図　下段遺跡　確認調査　4T　遺物出土状況図及びⅢ－b層上面遺構検出状況図……25
第12図　下段遺跡　確認調査　トレンチ位置図……26
第13図　下段遺跡　確認調査　2・3T　土層断面図……27
第14図　下段遺跡　確認調査　Ⅲ－a層出土遺物……28
第15図　下段遺跡　確認調査　土坑内出土遺物……28

第Ⅵ章
第16図　和田上遺跡　確認調査　1T　遺物出土状況図及び土層断面図……30
第17図　和田上遺跡　確認調査　2T　遺物出土状況図及び土層断面図……31
第18図　和田上遺跡　確認調査　3T　遺物出土状況図及び土層断面図……32
第19図　和田上遺跡　確認調査　トレンチ位置図……33
第20図　和田上遺跡　確認調査　1・2・3T土層断面図……34
第21図　和田上遺跡　確認調査　4・5T　土層断面図……35
第22図　和田上遺跡　確認調査Ⅹ Ⅱ・Ⅹ Ⅲ層出土遺物（1）……36
第23図　和田上遺跡　確認調査Ⅹ Ⅱ・Ⅹ Ⅲ層出土遺物（2）……37
第24図　和田上遺跡　確認調査Ⅹ－b・c・e層出土土器……37
第25図　和田上遺跡　確認調査Ⅹ－b・e層出土石器……38

表

第Ⅱ章
第1表　土製勾玉計測表……8
第2表　石鏃計測表……8
第3表　周辺遺跡一覧（1）……10
第4表　周辺遺跡一覧（2）……11
第5表　周辺遺跡一覧（3）……12
第6表　周辺遺跡一覧（4）……13

第Ⅲ章
第7表　確認調査　トレンチ表……15

第Ⅴ章
第8表　下段遺跡　確認調査　土器観察表……29
第9表　下段遺跡　確認調査　石器計測表……29

第Ⅵ章
第10表　和田上遺跡　確認調査　Ⅹ Ⅱ・Ⅹ Ⅲ層出土石器計測表……35
第11表　和田上遺跡　確認調査　Ⅹ－b・c・e層出土土器観察表……38
第12表　和田上遺跡　確認調査　Ⅹ－b・e層出土石器観察表……38

写真

第Ⅶ章
写真1　№24細石刃使用痕……40
写真2　№20細石刃使用痕……41

図版

図版1　下段遺跡　確認調査
図版2　和田上遺跡　確認調査
図版3　井手上B遺跡・上ノ段E遺跡　確認調査　他
図版4　出土遺物

第Ⅰ章　調査に至る経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

鹿児島県農政部農地整備課（大隅地域振興局農林水産部曽於支所、以下「県農整課」）は、野井倉下段地区において経営体育成基盤整備事業を計画し、事業区内の埋蔵文化財包蔵地の有無について鹿児島県教育委員会文化財課に照会した。

これを受けて鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下「県埋文センター」）と志布志市教育委員会文化振興課（当時　現志布志市教育委員会生涯学習課文化財管理室　以下「市文化財管理室」）が平成１９年３月に埋蔵文化財分布調査を実施したところ、事業区内に遺物散布地として、井手上Ｂ遺跡・和田上遺跡が存在することが判明した。

この分布調査の結果をもとに県農整課、県教育庁文化財課（以下「県文化財課」）、市文化財管理室は、埋蔵文化財の保護と事業の調整を図るため協議を行った結果、事業着手前に埋蔵文化財確認調査（以下「確認調査」）を実施することとなった。

また、事業計画の一部変更から、事業区内に周知の遺跡である下段遺跡・上ノ段Ｅ遺跡も該当することがわかり、同じく確認調査を実施することとなった。

確認調査は県文化財課の指導・助言を受けて、志布志市教育委員会が調査主体となり、平成２０年８月１８日から１１月７日に実施した。

第２節　調査の組織

〔確認調査〕　平成２０年度

調査主体者	志布志市教育委員会		
調査責任者	志布志市教育委員会	教育長	坪田勝秀
調査調整	〃	生涯学習課長	小辻一海
	〃	文化財管理監	米元史郎
	〃	文化財管理室長	竹田孝志
調査事務	〃	埋蔵文化財係長	小村美義
	〃	主任主査	出口順一朗
	〃	主査	大窪祥晃
	〃	主事補	相美伊久雄
	〃	技師補	上集一樹
調査担当者	志布志市教育委員会	主任主査	出口順一朗

確認調査　発掘作業員

有野エツ子　今西洋一　大迫　亨　岡村エチ子　加賀城有喜　金子武信　桑畑　弘
小宇都哲朗　小平光子　小松範昭　園田信夫　嶽タエ子　田迫チヅ　谷口チエ
谷口モギ　田淵孝夫　永野タミ　長野正富　永吉サエ　西　正和　服部富美子
服部昌之　原口ミヅキ　平原和子　平原賢二　福永久雄　馬原キヌ子　村久木マサ子
持永ハツ子　本室富士男　森　勇　森　喜英　盛川忠義　森重容子　森山敬子
山角利行　山脇八重子　用皆サダ子　吉井弘子　吉元ユリ子

（以上　社団法人　志布志市シルバー人材センター）

〔報告書作成〕 平成２１年度

調査責任者	志布志市教育委員会	教育長	坪田勝秀
調査調整	〃	生涯学習課長	小辻一海
	〃	文化財管理監	米元史郎
	〃	文化財管理室長	竹田孝志
調査事務	〃	埋蔵文化財係長	上田義明
	〃	主任主査	出口順一朗
	〃	主査	大窟祥晃
	〃	主事	相美伊久雄
	〃	技師補	上集一樹
調査担当者	志布志市教育委員会	主任主査	出口順一朗

整理作業員：安野美子・山元弓枝（市教育委員会生涯学習課文化財管理室臨時職員）
遺物洗浄・注記・接合：安野美子・山元弓枝
土器実測・石器実測：出口順一朗・山元弓枝
遺物トレース：山元弓枝
遺構トレース：安野美子・山元弓枝
遺物拓本：山元弓枝
遺物撮影：吉岡康弘・出口順一朗
石器実測の一部は株式会社九州文化財研究所鹿児島営業所に委託した。
石器実測：青木智子
石器トレース：鎌崎郁恵

第３節　井手上Ｂ遺跡・上ノ段Ｅ遺跡・下段遺跡・和田上遺跡　発掘調査の経過

８月１８日（月）～８月２２日（金）

井手上Ｂ遺跡

レベル杭Ｅ・Ｇ、基準杭設置。１Ｔ設定及び掘り下げ、Ⅸ層上面検出状況写真撮影。
遺跡周辺の環境整備及び安全対策。

８月２５日（月）～８月２９日（金）

井手上Ｂ遺跡

１Ｔ掘り下げ、遺物（礫）取り上げ、ＸＩ層上面完掘状況写真撮影、南壁土層断面図作成。２・３Ｔ設定及び掘り下げ、２ＴⅨ層上面検出状況写真撮影。１・２トレンチ位置図作成。
コンテナハウスの設置。発掘調査用具の搬入。

９月１日（月）～９月５日（金）

井手上Ｂ遺跡

１Ｔ埋め戻し。２・３Ｔ掘り下げ、２ＴＸＩ層上面完掘状況写真撮影、南壁土層断面写真撮影。
生涯学習課文化財管理室　小村係長、相美氏来跡。

９月８日（月）～９月１２日（金）

井手上Ｂ遺跡

レベル杭H・J設置。2T南壁土層断面図作成、埋め戻し。3・4T掘り下げ、Ⅸ層上面検出状況写真撮影、南壁土層断面写真撮影。4T掘り下げ、Ⅸ層上面検出状況写真撮影、南壁土層断面写真撮影、4T埋め戻し。5T設定及び掘り下げ、Ⅸ層上面検出状況写真撮影。2・3Tトレンチ位置図作成。

重機搬入。台風13号発生による台風襲生。

9月16日（火）～9月19日（金）

台風13号接近により作業中止。

9月22日（月）～9月26日（金）

井手上B遺跡

5T掘り下げ、トレンチ位置図作成、XⅠ層上面完掘状況写真撮影、西壁土層断面写真撮影。

9月29日（月）～10月3日（金）

井手上B遺跡

5T西壁土層断面実測、埋め戻し。

10月14日（火）～10月17日（金）

和田上遺跡

レベル杭a～c・e設置。1～5T設定及び掘り下げ、Ⅸ層上面検出状況写真撮影、1TX－a層出土礫状況写真撮影。2TX－c・d・e層遺物出土状況写真撮影。4TXⅠ層上面完掘状況写真撮影、北壁土層断面写真撮影。

下段遺跡

1～4T設定及び掘り下げ。

10月20日（月）～10月24日（金）

和田上遺跡

レベル杭f・g・h設置。1TX－a層出土礫取り上げ、XⅠ層上面検出状況写真撮影、掘り下げ。2TX－d・e層遺物取り上げ、XⅠ層上面検出状況写真撮影、掘り下げ。3T掘り下げ、遺物取り上げ、炭化物出土状況作成、東壁土層断面写真撮影及び実測図作成、埋め戻し。4T北壁土層断面実測図作成、埋め戻し。5T掘り下げ、Ⅸ層上面検出状況写真撮影、XⅠ層上面完掘状況写真撮影、北壁土層断面写真撮影及び実測図作成。3～5トレンチ位置図作成。

下段遺跡

レベル杭Ⅰ・Ⅱ設置。1～3T掘り下げ、1TⅡ層及び遺構内遺物出土状況写真撮影。2TⅡ層遺物出土状況写真撮影、遺物取り上げ、Ⅸ層上面検出状況写真撮影、XⅠ層上面検出状況写真撮影。3TⅨ層上面検出状況写真撮影、XⅠ層上面検出状況写真撮影、西壁土層断面写真撮影及び実測図作成、3Tトレンチ位置図作成、埋め戻し。

上ノ段E遺跡

1T設定及び掘り下げ、Ⅸ層上面検出状況写真撮影。

10月27日（月）～10月31日（金）

和田上遺跡

1・2T掘り下げ、XⅡ・XⅢ層遺物出土状況写真撮影、遺物取り上げ、XⅥ層上面検出状況写真撮影、土層断面写真撮影及び実測図作成、1・2Tトレンチ位置図作成。1・2・5T埋め戻し。

下段遺跡

レベル杭Ⅲ・Ⅳ設置。1・4TⅡ層及び遺構内遺物取り上げ、Ⅲ－a層上面遺構検出状況写真撮

影及び実測図作成、土層断面写真撮影及び実測図作成、トレンチ位置図作成。２Ｔ西壁土層断面写真撮影及び実測図作成、埋め戻し。

上ノ段Ｅ遺跡

レベル杭１設置。１ＴＸＩ層上面検出状況写真撮影、ＸＶI層上面検出状況写真撮影、南壁土層断面写真撮影及び実測図作成、トレンチ位置図作成、埋め戻し。

遺跡周辺の清掃、調査用具の搬出、整地。コンテナハウスの撤出。埋め戻し。

第４節　調査の概括

起因事業名：経営体育成基盤整備事業　野井倉下段地区

起因事業者：鹿児島県農政部

遺　跡　名：井手上Ｂ遺跡・上ノ段Ｅ遺跡・下段遺跡・和田上遺跡

所　在　地：井手上Ｂ遺跡　鹿児島県志布志市有明町野井倉字井手上

上ノ段Ｅ遺跡　鹿児島県志布志市有明町野井倉字上ノ段

下　段　遺　跡　鹿児島県志布志市有明町野井倉字下段

和　田　上　遺　跡　鹿児島県志布志市有明町野井倉字和田上

調査面積：井手上Ｂ遺跡　３６．５㎡　上ノ段Ｅ遺跡　８㎡

下　段　遺　跡　２８．５㎡　和　田　上　遺　跡　４０㎡

調査期間：平成２０年８月１８日～１１月７日（４６日間）

第５節　調査の方法

確認調査は、遺跡の性格と範囲を把握するために、事業対象区域内にトレンチを設定して実施した。井手上Ｂ遺跡では５トレンチ、上ノ段Ｅ遺跡では１トレンチ、下段遺跡では４トレンチ、和田上遺跡では５トレンチを設定した。調査は、表土を重機により除去した後、人力による掘り下げ作業を実施した。包含層の残存状況は全体的に良好であったが、一部で削平が見られた。

第6節　層位

1　井手上B遺跡・下段遺跡・和田上遺跡標準土層

井手上B遺跡・下段遺跡・和田上遺跡の確認調査時の標準土層は下記のとおりである。

層位	層　色	土　色・土　質
Ⅰ－a層	10YR4/1 〔褐灰色〕	表土層。層中に白色テフラ(N9/0　直径2㎜程度)を含む硬質土。
Ⅰ－b層	10YR3/1 〔黒褐色〕	通称　パン。Ⅰ－a層に様子は似るが、硬く締まった硬質層。
Ⅰ－c層	10Y3/1 〔オリーブ黒色〕	旧耕作土。Ⅰ－b層より白色軽石（5Y8/1　粒径2～5㎜大）が比較的少ない締まった層。
Ⅰ－d層	10Y3/1 〔オリーブ黒色〕	層の様子はⅠ－c層に似るが白色軽石(5Y8/1　粒径2～5㎜大)の含有が減り、より硬く締まった層。
Ⅱ層	10Y2/1 〔黒色〕	層中にテフラ・パミスの類を含まない黒色土。下段遺跡における古墳時代の遺物包含層である。
Ⅲ－a層	2.5Y3/2 〔黒褐色〕	層中に微細な淡黄色粒子（5Y8/3　直径1～2㎜程度）を多含する締まった層。下段遺跡における弥生・古墳時代の遺物包含層である。
Ⅲ－b層	7.5Y3/1 〔オリーブ黒色〕	層の様子はⅢ－a層に似るが、より締まる層。トレンチ箇所によりⅢ－a・Ⅲ－b層の分層が困難な層がある。
Ⅳ層	10Y2/1 〔黒色〕	層中にテフラ・パミスの類を含まない黒色土。層にわずかに光沢が見られる。
Ⅴ層	7.5Y2/1 〔オリーブ黒色〕	層の様子はⅣ層に似るが、より締まる層。層に光沢は見られない。
Ⅵ－a層	10Y3/1 〔オリーブ黒色〕	層中に疎らに橙色パミス（7.5YR6/6　直径1～2㎜程度）を含む締まった層。
Ⅵ－b層	10Y3/1 〔オリーブ黒色〕	層の様子はⅥ－a層に似るが、パミスが多含な層。トレンチ箇所により含有されるパミス濃度の異なりが見られる。
Ⅶ層	2.5Y2/1 〔黒色〕	層中にテフラ・パミスの類を含まない黒色土。層の締まり具合によりⅦ－a・Ⅶ－b層に分層出来るところも見られる。
Ⅷ層	5Y3/1 〔オリーブ黒色〕	通称　池田降下軽石層。黄橙色テフラ（10Y8/6　直径5～20㎜程度）が含まれ、やや粘性を持ち光沢のある硬く締まった層。
Ⅸ層	10YR6/6 〔明黄褐色〕	通称　アカホヤ層。層の下位に5～10㎜大の明黄褐色テフラ(10YR7/6)が層を成す硬く締まった層。場所によりⅨ－a・Ⅸ－b・Ⅸ－c層に分層できる箇所もある。
Ⅹ－a層	5Y3/1 〔オリーブ黒色〕	層中にテフラ・パミスの類を含まない硬く締まった層。
Ⅹ－b層	2.5Y3/1 〔黒褐色〕	層中に明黄褐色パミス（10YR6/8　直径1～2㎜程度）を含む硬く締まった層。和田上遺跡における縄文時代早期の遺物包含層である。
Ⅹ－c層	2.5Y3/1 〔黒褐色〕	層の様子はⅩ－b層に似るが、層中のパミスの直径が大きくなり（直径3～5㎜程度）、比較的硬い層。和田上遺跡における縄文時代早期の遺物包含層である。
Ⅹ－d層	2.5Y3/1 〔黒褐色〕	Ⅹ－c層に比べて層中のパミスの含有が最も多く、かなり硬化した層。トレンチ箇所によりⅩ－c・Ⅹ－d層との分層が困難な層もある。和田上遺跡における縄文時代早期の遺物包含層である。

X－e層	2.5Y3/2 〔黒褐色〕	層に含まれるパミスの量が少なくなり、層色も比較的淡くなる締まった層。和田上遺跡における縄文時代早期の遺物包含層である。
XⅠ層	10YR5/3 〔にぶい黄褐色〕	通称　サツマ火山灰層。かなり硬化し締まった層。層中に黄色テフラ（2.5Y8/6　直径1～10㎜程度）が混ざり、ブロック状な塊が見られる。
XⅡ層	7.5YR6/3 〔にぶい褐色〕	層に濁りが見られ、粘性がある層。和田上遺跡における旧石器時代の遺物包含層である。
XⅢ層	7.5YR6/4 〔にぶい橙色〕	層にかなり強い粘性をもち、層中に小礫（直径10㎜大）が若干見られる。和田上遺跡における旧石器時代の遺物包含層である。
XⅣ層	10YR6/6 〔明黄褐色〕	XⅢ層に比べて比較的粘性が弱いが、比較的小礫（直径10㎜大）を多く含む。
XⅤ層	7.5YR6/6 〔橙色〕	粘性が弱いが、若干の粘りがある。層色も淡くなり、小礫が多含。
XⅥ層	7.5YR6/8 〔橙色〕	シラスの２次堆積層と思われ、硬く締まり、粘性もなくサラサラとした層。

和田上遺跡のアカホヤ層（Ⅸ層）下位において、鬼界幸屋火砕流堆積物と思われる橙色の小軽石と中粒砂を含む層が所々で視認できたが、全体的な層堆積は見られなかった。

2　上ノ段E遺跡標準土層

上ノ段E遺跡の確認調査標準土層は、サツマ火山灰層（XⅠ層）までは井手上B遺跡・下段遺跡・和田上遺跡の標準土層と同様であるが、その直下より若干の変化が見られる。

層位	層　色	土　色・土　質
XⅡ層	5R4/1 〔暗赤灰色〕	強い粘性があり、層に弾力があるが締まった層。
XⅢ層	5R5/1 〔赤灰色〕	層にかなり強い粘性をもち、層も硬く締まる。
XⅣ層	5R5/1 〔赤灰色〕	層に強い粘性をもち、黒い斑が層中に見られる硬く締まった層。
XⅤ層	10YR6/6 〔橙色〕	層に濁りが見られず、粘性も弱くなるが締まった層。
XⅥ層	7.5YR6/8 〔橙色〕	シラスの２次堆積層と思われ、硬く締まり、粘性もなくサラサラとした層。

第Ⅱ章　遺跡の位置及び環境

第1節　志布志市の概要

志布志市は鹿児島県大隅半島の東部、志布志湾奥のほぼ中央に位置し、東部は宮崎県串間市、西部は大崎町、北部は曽於市と境をなしその一部は宮崎県都城市と接し、総面積は290㎢であり、大崎町内に1.02㎢の飛地を有している。

第2節　地形的環境の概要

市周辺の地形は、全体として志布志湾に向かって緩やかな勾配となっており、有明地区においては平野部が極端に少なく、標高100ｍの辺りから大きく南部の台地と北部の山岳・丘陵地帯に二分される。

有明地区南部の台地は安楽川・菱田川・田原川・肝属川などの諸川によって開析される標高約20～100ｍの火山噴出物の台地（シラス台地）が広がり、「原（ばる）」と表現される比較的平坦な台地が見られる。この台地を南北に貫流する河川に菱田川があり、この沿岸に河岸段丘が形成されている。この河岸段丘は三段階の段丘に大別され、台地上においては地下水位がシラス下部の深い位置にあり、第三段丘面は集落等の形成が困難で開田以前まではほとんど利用されず、現在は明治から昭和にかけて先人たちの開墾による野井倉開田・蓬原開田が拓がり、広域に跨る稲作地帯となっているが、シラス下部或いは降下軽石層を流動する浅層地下水の露頭される段丘面の末端（崖脚）からの自然湧水の有無が集落立地の重要な因子であった。

北部から東部にかけては標高100ｍのあたりから山岳地帯となり、志布志市内においては宮田山（標高520ｍ）をはじめ、霧岳（標高408m）、御在所岳（標高530m）などの山岳・丘陵地帯が広がる地域で、中世層を基盤として準平原化の後、周囲の台地が形成されたものといわれ、山地の開析は相当に進み、火山灰台地面を除いてほとんど平坦面を残していないため、起伏の多い丘陵が連なっている。そのため山岳・丘陵地帯の集落はこれまで谷間に点在していた。

井手上Ｂ遺跡・上ノ段Ｅ遺跡・下段遺跡・和田上遺跡は市南部の火山灰台地の菱田川沿いの東岸の河岸段丘の台地上にあり、菱田川と安楽川に挟まれたこの台地は通称「野井倉原（のいくらばる）」と呼ばれる。本遺跡は野井倉原の西端にあり、上記４遺跡のうち、井手上Ｂ遺跡・下段遺跡・和田上遺跡は菱田川東岸の標高約80ｍの第２段丘面に、上ノ段Ｅ遺跡は標高約100ｍの第３段丘面に立地する。

第3節　遺跡周辺の歴史的環境

本遺跡周辺には菱田川の沿岸を中心にして多数の遺跡が存在する。（第２図）

井手上Ｂ遺跡に隣接する井手上Ａ遺跡〔69－62〕からは昭和45年度に旧有明町文化財審議委員会の文化財調査時に、同遺跡地内に存在する『天神の洞窟』から弥生土器と思われる土器片と人骨が発見されたという記録が残っている。また、井手上Ｂ遺跡・下段遺跡・和田上遺跡の存在する第２段丘面の対岸には、市指定史跡である馬場地下式横穴〔69－86〕が存在する。この地下式横穴は昭和37年10月、道路工事中に道路矩面で発見されたもので、３基確認され玄室から鏡身・鉄剣・人骨等が出土した。さらに平成11年度にも地下式横穴が確認された対面の矩面工事中に、竪孔と見られる遺構が６基確認され、付近にも同様の地下式横穴が散在している可能性が指摘されている。また中世遺構として、馬場地下式横穴の東側に菱田川の西岸沿いに中世山城である蓬原城跡〔69－91〕、金丸城跡〔69－79〕、さらにその南側には片平城跡〔69－80〕が存在する。

さらに、本遺跡周辺の埋蔵文化財発掘調査の成果として、本遺跡を含む同台地上の第２段丘面南側、標高約 30 m付近に立地する上苑Ａ遺跡〔69 － 165〕は、平成 16 年に農道整備事業による本調査を行い、縄文前期・縄文晩期・弥生中期・古墳・古代・中世の多時期に渡る遺物・遺構が確認され、特に段丘面の西端部に古墳時代の竪穴住居群と筬貫式に比定される土器及び在地性に富む成川式土器が共伴する形で確認されている。

【参考文献】

出口順一朗・東　徹志・中水　忍・中村直子・内山伸明　2008 『上苑Ａ遺跡・穴倉Ｂ遺跡』志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書（１） 志布志市教育委員会

有明町郷土史編纂委員会　1980 『有明町誌』 有明町教育委員会

周辺遺跡の出土遺物

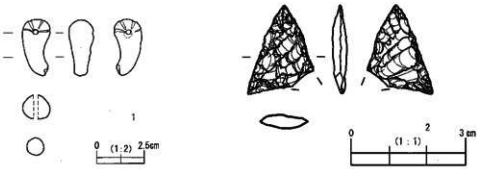
１は土製勾玉である。大塚遺跡〔69 － 203〕範囲内の表土採集遺物であり、一部欠損が見られるがほぼ完形である。上部穿孔を中心に４条の凹線が施され、穿孔は直径２㎜を測る。２は黒曜石製の石鏃である。上苑Ａ遺跡〔69 － 165〕の確認調査で出土した。抉入部がやや浅い抉りをもつ比較的小型の石鏃である。右肩が欠損している。

第１表　土製勾玉計測表

挿図番号	番号	出土地	出土層	器種	胎土						法量（cm・g）				備考
					石英	雲母	角閃石	曜石	赤土	砂	最大長	最大幅	最大厚	重量	
第１図	1	有明町原田東下	表土層	土製勾玉		○		○		○	3.00	1.50	1.50	4.49	平成 18 年３月７日発見 大塚遺跡〔69 － 203〕の範囲

第２表　石鏃計測表

挿図番号	番号	注記番号	出土層（遺構）	器種	石質	法量（cm・g）				備考
						残存長	残存幅	最大厚	重量	
第１図	2	一括	Ⅱ－１層	石鏃	黒曜石	2.35	1.75	0.40	1.10	右肩欠損　OB2AU 上苑Ａ遺跡〔69 － 165〕確認調査出土遺物



第１図　周辺遺跡　出土遺物

第2図　周辺遺跡位置図

第3表　周辺遺跡一覧（1）

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
69－1	柳井谷	山賀字柳井谷	台地	縄文(早・晩)	磨平式・黒色磨磨土器・無刺土器	
69－2	松ヶ尾	伊崎田字松ヶ尾・剣ノ谷・茶ヶ谷	台地	縄文(早・後)・古代・中世	磨平式・角筒式・喜ノ神式・黒川式・石器・打製石斧・磨製石斧・剣片・黒色磨土器・土師器・土師器・須恵器・須恵器・鉄滓遺構	福岡県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (10) 鋼金線石器 (10)
69－3	松ヶ尾B	伊崎田字松ヶ尾・茶ヶ谷	台地	縄文(早)・古墳	平柄式	
69－4	牧原A	伊崎田字牧原・大道	台地	縄文(早・晩)・古墳	加栗山式・石版式・黒川式・石版・打製石斧・溝	石町町埋蔵文化財発掘調査報告書 (3) 旧名：牧原
69－5	伊崎田遺	伊崎田字牧・西ノ道	台地	縄文(早・後)	石版式・吉田式	旧名：西之道
69－6	宮城A	野井倉字宮城	台地	縄文(早・後)	前平式・上野条痕文	
69－7	宮城B	野井倉字岩坂・鍛冶	台地	縄文(早・晩)・弥生(前)	打製石斧・平柄式	
69－8	牡ヶ段B	伊崎田字牡ヶ段・鍋瀬	台地	古墳・中世	水山式	旧名：牡ヶ段C
69－9	抜谷	野神字抜谷	台地	縄文(中・晩)・弥(中)	打製石斧・石皿	
69－10	高牧A	山賀字高牧	台地	縄文(早・中・晩)・弥生	磨ノ神式・磨石・石鏃	旧名：高牧
69－11	向原	伊崎田字向原・谷ヶ迫	台地	縄文(中・晩)・古墳	石・土器	旧名：茶ヶ谷B・茶ヶ谷
69－12	高宮	野井倉字高宮・前田・下段	台地	縄文(中・晩)・弥生	土器・石皿	旧名：上高宮
69－13	鍋瀬C	伊崎田字鍋瀬・牡ヶ段	台地	古墳	土師器	旧名：牡ヶ段B・牡ヶ段D
69－14	下平野	山賀字下平野	台地	縄文(後)	条痕文土器	
69－15	黒瀬A	伊崎田字黒瀬・牧原	台地	縄文(早・後・晩)・古代・中世	磨平式・磨ノ神式・平柄式・入佐式・黒川式・土師器・瓦	有明町埋蔵文化財発掘調査報告書 (3)
69－16	いせんぼ	伊崎田字仕ヶ段・大道	台地	縄文(後・晩)・弥生	磨式・磨磨式・土器同磨・磨製石斧・打製石斧・石皿・石鏃・磨石・鉄滓	有明町埋蔵文化財発掘調査報告書 (11)
69－17	牡ヶ段A	伊崎田字牡ヶ段・牡ノ下	台地	縄文(後)	十器	
69－18	牧原遺	野井倉字牧原遺・牧原	台地	縄文(後)・中世	土師器・鉄滓	
69－19	平尾A	野井倉字平尾・井手上	台地	縄文(後)・中世	三万田式・土師器	旧名：中野
69－20	土橋	野井倉字土橋・下土橋・土原・台所・下土・谷尾・伊崎田字堺・西ヶ迫	台地	縄文(後)・弥生(中)	土器・石器・鉄滓	旧名：中野
69－21	向殿B	遠原字向殿	台地	縄文(後)・歴史	土師器	旧名：向殿A
69－22	牧原A	野神字牧原・高尾・中牧	台地	縄文(後)・古墳	磨製石斧・打製石斧	旧名：鍋野・牧原
69－23	高牧B	野神字高牧・山賀字平野	台地	縄文(後)・古墳	磨鏃式土器・中津野式・土師器	
69－24	倉ヶ崎C	山賀字倉ヶ崎	台地	縄文(後)・弥生(中)・歴史	土器・石器・土師器	旧名：倉ヶ崎
69－25	中尾	山賀字中尾・長谷	台地	縄文(晩)・弥生	土器	
69－26	牛ヶ迫	伊崎田字牛ヶ迫・松ヶ尾・竹体	台地	縄文(晩)・弥生	石鏃	
69－27	大道	伊崎田字大道	台地	縄文(早・晩)	磨平式・石版式・平柄式・喜ノ神式・入佐式・黒川式・打製石斧・磨製石斧・石鏃	有明町埋蔵文化財発掘調査報告書 (3)
69－28	鍋瀬A	伊崎田字鍋瀬・坂ノ下	台地	縄文(晩)・中世	土器・土師器	
69－29	鍋野	伊崎田字鍋野・丸岡・刀石	台地	縄文(晩)		
69－30	岡江原	伊崎田字岡江原	台地	縄文(晩)	剥片石器	旧名：牧ノ口
69－31	山崎	伊崎田字山崎・宮谷	台地	縄文(晩)	入佐式・黒色磨磨土器・打製石斧・敲石・磨石・剥片	有明町埋蔵文化財発掘調査報告書 (1)
69－32	礼用	伊崎田字礼用・山原	台地	縄文(後・晩)・古墳	小形丸鏃・磨石・打製石斧・磨平円盤・鉄製石斧	有明町埋蔵文化財発掘調査報告書 (1) 鉄製石斧
69－33	下原	伊崎田字下原	台地	縄文(早・晩)・弥生	吉田式・喜ノ神式	旧名：鳥八塚・下原
69－34	向原	野井倉字西原・中川	台地	縄文(晩)・古墳	打製石斧・円筒(牧ノ内古墳)	旧名：牧之内
69－35	平尾B	野井倉字平尾・小松	台地	縄文(晩)・中世	打製石斧・青磁	旧名：出水
69－36	原畑C	伊崎田字原畑・大道	台地	縄文・弥生	石・土器	
69－37	牡ノ下	伊崎田字牡ノ下	台地	縄文		
69－38	丸岡A	伊崎田字丸岡・力石	台地	縄文(早・晩・晩)	前平式・吉田式・轟B式・黄島式・阿高式・黒川式・入佐式・石皿・石鏃・石錐・磨製石斧・剥片・型穴状遺構・集石	有明町埋蔵文化財発掘調査報告書 (4)・(11) 旧名：丸岡
69－39	上ノ原A	伊崎田字上ノ原・池田	台地	縄文(早)・中世	石版式・前平式・平柄式・亀ヶ淵系須恵器	旧名：上ノ原B・上ノ原D・高瀬田遺
69－40	平尾	野井倉字平尾・小松	台地	縄文		
69－41	川添	山賀字川添・鍋ヶ迫・谷後	台地	縄文・弥生(前・中)	打製石斧	
69－42	城瀬	原田字城瀬・下原・高宮・田平	台地	縄文・歴史	土師器	旧名：高宮
69－43	鈴殿	山賀字鈴殿・中道・野神字水道	台地	弥生(前)	土器・石器	旧名：鈴ヶ殿
69－44	倉道A	山賀字倉道・鉄ヶ迫	台地	弥生(中)	石斧	旧名：倉ヶ崎A・倉ヶ崎
69－45	上平野	山賀字上平野・野神字清水	台地	弥生(中)	土器	旧名：平野
69－46	山賀	山賀字山賀・山中	台地	弥生(中)	七器・石器	
69－47	松原	野井倉字松原・上ノ浜	低地・砂丘	弥生(中・後)	土器	旧名：神明
69－48	猪平	遠原字猪平・井鶴・田ノ浦	台地	弥生(中)	土器・石器	旧名：平山
69－49	大黒A	遠原字大黒・上大黒・小松	台地	縄文(晩)・弥生(中)・古墳	洪水式・打製石斧	旧名：大黒原・遠原・東大久保・大黒
69－50	古地	野神字古地・高瀬	台地	弥生(中)	磨製石斧・打製石斧	旧名：猪野
69－51	猪水	原田字猪水	台地	弥生(中)	弥生中期土器・変形錦形土器・高坏・打製石斧・磨製石斧	旧名：宇田・原田・元宮町下・水田
69－52	原畑	野井倉字原畑・舟山・前田	台地	弥生(後)・古墳	石斧・土師器	旧名：河山
69－53	下水流	遠原字下水流・宮ノ前	台地	弥生(後)・古墳	台器・土師器	旧名：九平
69－54	田浦A	野神字田浦・田中	台地	弥生	十器・石器	旧名：田浦・田岡
69－55	田岡B	野神字田岡・入久保・山霊寺跡	台地	弥生	打製石器	旧名：鎌
69－56	成切C	山賀字成切・上平野・野神字堺本	台地	弥生		旧名：清水之
69－57	三万塚	伊崎田字三万塚	台地	弥生	心・七器	旧名：綱瀬B・鉄瀬
69－58	前田	伊崎田字前田	台地	弥生	十器・石器	旧名：東ケ谷A
69－59	東段A	伊崎田字東段・力石	台地	弥生		旧名：丸岡B
69－60	中野	伊崎田字中野・下原	台地	弥生	上器・石器	
69－61	西ノ谷	野井倉字西ノ谷・岩坂	台地	弥生		
69－62	井手上A	野井倉字井手上・上ノ水流	台地	縄文(早)・弥生・古墳	入佐式・成川式・十器・石器・人骨	旧名：天神
69－63	古村	野井倉字古村・野古	台地	縄文(後)・弥生	中臣五式・石鏃・打製石斧	旧名：下野井倉
69－64	上原A	野井倉字上原・西原	台地	弥生・古墳	上器・土師器	

第4表　周辺遺跡一覧（2）

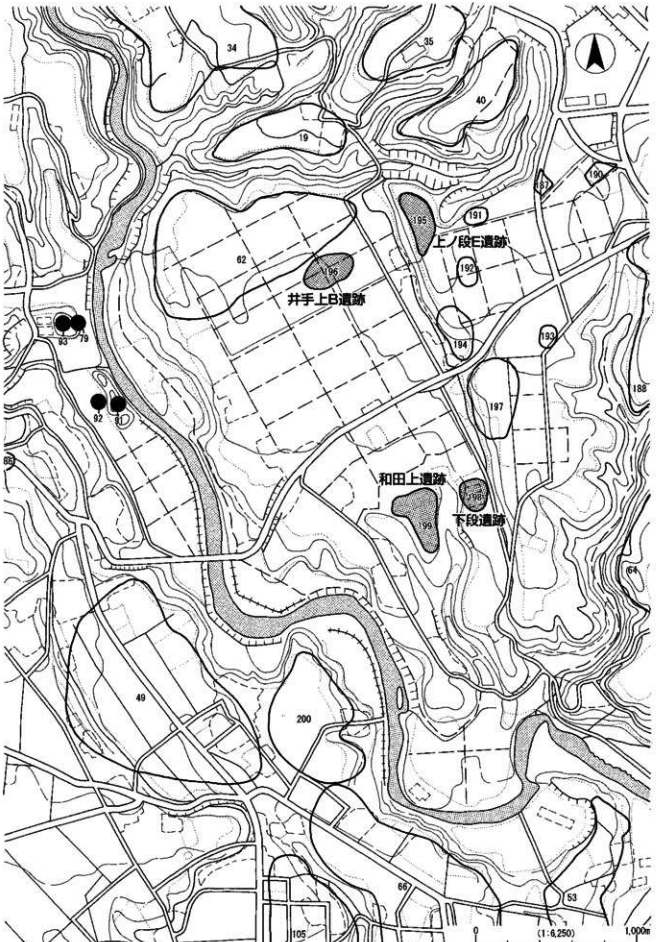
番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
69－65	長田	原山字長田・牧・華井免	台地	弥生（中）・古墳・中世	山ノ口式・成川式・灰化米・土師器壺・徳泉寺高麗瓶・白磁・非刑高高麗付・整穴住居跡・側立柱建物跡・十鼎器	有明町埋蔵文化財発掘調査報告書(2)
69－66	仕明	蒲原字仕明・宮ノ前・大園・牧	台地	旧石器・縄文（早・晩）弥生（中）・古墳・古代中世・近世	マイクロコア・剥片・手角石式・岩鹿式・石皿類点・土師器壺・石鏃・不明土・製陶土器・白磁・青磁・青白磁合子・鉄製刀子・条付・鳥羽摩・整穴住居跡・掘立柱建物跡・古道・溝	有明町埋蔵文化財発掘調査報告書(7)・(11)
69－67	平野古墳	山鹿字上平野	台地	古墳	円墳・象石6枚	旧名：平野
69－68	鶴山墳	伊崎田字鶴ヶ迫	台地	古墳	円墳	旧名：伊崎田鶴
69－69	片平古墳	蒲原字仕明・道水	低地	古墳	円墳	旧名：片平
69－70	山神ノ上古墳	野神字墨平	台地	古墳	円墳	
69－71	宮陰古墳群	野神字岡内・井平元・迎迫	台地	古墳	円墳3基・石棺	旧名：岡屋A古墳・宮屋B古墳・宮屋C古墳
69－72	中方横穴墓群	野神字穴倉	台地	古墳	円墳	旧名：中方屋
69－73	渡迫古墳群	野神字岩道	台地	古墳	円墳	旧名：渡迫
69－74	高井田古墳群	原山字上原	台地	古墳	円墳1基・方墳1基	旧名：高井田1・高井田2
69－75	登ヶ尾B	山鹿字登ヶ尾・平野	台地	縄文	土師器	
69－76	牧原	中崎田字牧原・大迫	台地	縄文（早・晩）・古墳・歴史	岡元式・打製石斧・磨製石斧・石鏃・須恵器	有明町埋蔵文化財発掘調査報告書(3)　旧名：黒恵B
69－77	鶴熊B	伊崎田字鶴熊	台地	中世	土師器	旧名：社ヶ段B
69－78	鶴熊A	蒲原字鶴熊・山鹿字田迫	台地	歴史	土師器	
69－79	金丸城跡	蒲原字神祇	丘陵	中世（総合）	堀祇・空堀　150 m × 200 m	
69－80	片平城跡	蒲原字上水流・仲明	丘陵	中世（平安末）	堀祇　150 m × 200 m	旧名：片平
69－81	高牧城跡	山鹿字高牧	丘陵	縄文（早・後・晩）・中世	単郭・山城・堀　100m × 300 m　石郭式・縄文・非東式・岡川式	有明町埋蔵文化財発掘調査報告書(11)
69－82	大代	野井倉字大代・樋口・大森・平	台地	縄文・古代	土器・土師器	旧名：大森
69－83	平B	野井倉字平・宮川	台地	古代・中世	土師器・青磁	旧名：平
69－84	次森	野井倉字次森・横堀	台地	古代	土師器	
69－85	原田古墳	原田字大堀・竹塚	台地	古墳	円墳5基・方墳1基	（町指定）昭44．4．1　史跡　旧名：大堀東小塚・大堀小塚・竹塚古墳・大堀古墳・長ノ上1号古墳・長ノ上2号古墳・大堀
69－86	馬場迫下武跡次	蒲原字小松・向城	台地	古墳	朝・鎧身・人骨	（町指定）昭52．4．21　旧名：馬場
69－87	東	野井倉字東・中次	台地	弥生	土師器	旧名：横堀A
69－88	横堀	野井倉字横堀・下段	台地	縄文（早）・弥生・古墳・古代	前平式・倉田式・石刻式・下諏訪式・亀ノ丸式・押型文・亀ノ甲式・平縁式・須恵器文・土師器・トロロ石器・石皿・石鏃・打製石斧・磨石・倉田・倉石・石皿・耳飾・土偶・遺構土坑・集石	有明町埋蔵文化財発掘調査報告書(8)　旧名：横堀B
69－89	下段C	野井倉字下段・東	台地	縄文（中・晩）・弥生	土器	旧名：鹿山
69－90	下段B	野井倉字下段・東	台地	弥生	土器	
69－91	蒲原城跡	蒲原字神原・出水	台地	中世（平安末）	堀祇・堀・空堀・土塁　100 m × 200 m	（町指定）昭44．4．1　史跡
69－92	黄宮新田遺跡	蒲原字神原・出水	低地	中世（鎌倉・南北朝）・近世	五輪塔・板碑・墓碑	（町指定）昭44．4．1　史跡
69－93	神宮財尊寺跡	蒲原字神原	台地	中世（室町）・近世	祇殿・礎石・鬼瓦・鬼瓦塔	（町指定）昭44．4．1　史跡
69－94	神宮石心院跡	野井倉字浦山	丘陵	近世	無縁塔・一字一石塔・墓碑	（町指定）昭44．4．1　史跡
69－95	伊倉宮跡下段	伊崎田字山ノ口	台地	縄文	土器	（町指定）昭44．4．1　史跡
69－96	早馬A	野井倉字早馬	台地	弥生	土器	
69－97	早馬B	野井倉字早馬	台地	弥生	土器	
69－98	早馬C	野井倉字早馬	台地	弥生	土器	
69－99	古原	野井倉字古原	台地	弥生・古代	土器・土師器	旧名：前原A
69－100	中次A	野井倉字中次	台地	弥生	土器	
69－101	中次B	野井倉字中次	台地	弥生	土器	
69－102	前原	野井倉字前原	台地	弥生	土器	旧名：前原B
69－103	板ノ上A	伊崎田字板ノ上	台地	弥生	土器	
69－104	上鳥	野井倉字上鳥・高古	台地	縄文（早・晩）・弥生（早）・古墳	岡平式・押型文・亀ノ神式・刻目突帯文・黒川式（縄束）・楕原式・集石・竪穴住居・掘立柱建物	有明町埋蔵文化財発掘調査報告書(5)
69－105	牧	蒲原字牧・外堀	台地	旧石器・縄文（早・晩）弥生（早・中）・古墳・近世	前平式・石鏃式・下剥離式・亀ノ神式・押型文・黒川突帯文・鉄製石鏃・石斧・石錐・山ノ口式・成川式・陶器類・須恵器・大打石・集石・掘立柱建物・柱列・溝	有明町埋蔵文化財発掘調査報告書(9)
69－106	板ノ上	原田字板ノ上・前田・西原	台地	弥生・古墳		旧名：板ノ下
69－107	谷ヶ迫A	伊崎田字谷ヶ迫・宝水・前段・鹿野	台地	古墳		
69－108	原畑	野神字原畑	台地	弥生（中）	土器・石斧	旧名：水ノ谷
69－109	吹切A	山鹿字吹切	台地	弥生		旧名：清水1
69－110	船迫	山鹿字船迫	台地	弥生・古墳		旧名：山鹿小前
69－111	山ノ口	伊崎田字馬場ヶ迫・中田・山ノ口前・桑鳥ヶ迫・見神	台地	縄文（早・前・中・後・晩）弥生（中）	押型文・貝殻文円筒形・古出式系・前平式系・亀ノ神式・草刈式・岩崎上層式・前田式・大平式爆石・市来式・土製品・組織痕文・山ノ口式・石鏃・石斧	鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(29)
69－112	段	伊崎田字段・金丸ヶ迫	台地	縄文（中・後）	轟式・指宿式	旧名：伊崎田
69－113	立山	伊崎田字立山・上ノ瀬・平・宮太郎	台地	縄文（前・中）・古墳	太田式	旧名：宮太郎・宮太郎・岩下
69－114	柚原古墳	蒲原字上迫・金丸	台地	古墳	円墳	
69－115	長坂古墳	野神字岩道・立下	台地	古墳	円墳	旧名：長坂
69－116	柚原	蒲原字柚原・大迫・金丸	台地	縄文（早・後・晩）・弥生・古墳・古代	黒川式・山ノ口式・成川式・内黒土器・土師器・土錘	有明町埋蔵文化財発掘調査報告書(4)
69－117	穴倉	野神字穴倉・小松	台地	縄文（早・後・晩）・弥生（後）・古墳・古代	石鏃式・下剥離式・貝殻条痕文・山ノ口II式・松木薗式・成川式・内黒土器・石錘・打製石斧・鳥石・磨製石鏃	志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書(1)-(6)
69－118	北別府	野神字芝用・小迫	台地	縄文・古墳	石鏃・打製石斧・土師器	

第5表　周辺遺跡一覧（3）

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
69－119	本村	伊崎田字本村・下原・大牧	台地	縄文(早・前・中)・弥生(中)	尖頭条痕文・安坦式・諸磯文・井草B式・山ノ内式・石器・石斧・石製・磨石・石皿・敲穴遺構	有明町埋蔵文化財発掘調査報告書(3)
69－120	御野入	伊崎田字御野	台地	縄文(早・前・中・晩)	茅山式・前平式・吉田式・井草文・井草B式・鵜ノ丸式・加曽利E式・鵜ノ丸式・曽畑式・興津式・黒川式・石器・石製・磨石・古墳	有明町埋蔵文化財発掘調査報告書(3) 旧名：御野
69－121	御野B	伊崎田字御野	台地	縄文・古墳		旧名：谷ヶ迫B・宮水原・宝水
69－122	谷口堀	蓬原字谷口堀	台地	縄文・古墳		
69－123	御野	伊崎田字御野・多々鳥	台地	縄文		
69－124	天神ノ尾	伊崎田字天神ノ尾	台地	縄文		
69－125	谷ヶ迫	伊崎田字谷ヶ迫・向殿・宇尾	台地	縄文(後・晩)・古墳	轟式・黒川式・夜臼式磨石・剥片	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(109) 旧名：向殿
69－126	平A	野神字平・下戸	台地	古墳		旧名：平
69－127	下堀	野神字下堀・立山	台地	縄文(早)・弥生(早) 古墳	撚糸式・吉田式・金岡B式・石坂式・下剥離式・桑ノ丸式・手向山式・押型文・桑ノ神式・石宮西式・梨状突帯文・板川式・石器・打製石斧・敲製石斧・磨石・蔵穴土坑	有明町埋蔵文化財発掘調査報告書(6) 志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書(3)
69－128	浜場	野神字浜場・新田	台地	縄文(早)・古墳	前平式・加栗山式・辻ダイア・石坂式・手向山式・桑ノ神式・黄渕式・石器・石製・磨石・敲石・土師器・須恵器・蔵穴土坑・集石・掘立柱建物遺構・墓穴土坑・集石・掘立柱建物	有明町埋蔵文化財発掘調査報告書(6) 志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書(3)
69－129	吹切B	山重字吹切	台地	縄文・古墳		旧名：吹切
69－130	水流	野神字水流	台地	古墳		
69－131	釣ヶ迫	山重字釣ヶ迫・野神字大久保	台地	古墳		旧名：釣ヶ迫
69－132	春上	野神字春上	台地	縄文・古墳		
69－133	鍋迫	山重字鍋迫・鍋迫・鶴	台地	古墳		
69－134	井ノ木	蓬原字井ノ木・竹ノ迫 山重字ト ノ段・鍋迫	台地	古墳		
69－135	大瀬	野神字大瀬・水流	台地	古墳・古代		
69－136	上原	原田字上原	台地	古代		
69－137	立山	原田字立山	台地	古墳		
69－138	東中原	原田字東中原・大塚・藤原・中原	台地	古墳		旧名：中原
69－139	鍋迫	野神字鍋迫・中尾	台地	古墳		
69－140	渡迫	野神字渡迫・野迫・鶴田・岩下	台地	古墳・古代	土師器	旧名：岩迫
69－141	牧原B	野神字牧原	台地	古墳		旧名：牧原
69－142	水流	野神字水流、蓬原字山ノ後	台地	古代		
69－143	山ノ前	蓬原字山ノ前	台地	古墳		
69－144	甘樋	蓬原字甘樋・梅ヶ・内城・小松	台地	弥生・古墳		旧名：平山
69－145	丸岡A	野神字丸岡・中ノ丸	台地	古墳		別名：丸岡
69－146	風穴	野神字風穴・五色	台地	古墳		
69－147	上五敷	原田字上五敷、野神字五色	台地	古墳		
69－148	五色	野神字五色・風穴	台地	古墳		
69－149	西ノ原	原田字西ノ原・下五敷	台地	古墳		
69－150	鶴都古	蓬原字鶴都古・大迫・柚原	台地	旧石器・縄文(草)・弥生 古墳	新月尖頭器・成川式・聚石・竪穴住居 土器埋甕	有明町埋蔵文化財発掘調査報告書(4)
69－151	丸岡B	野神字丸岡、蓬原字柚原・山ノ後・井ノ木	台地	古墳		旧名：柚原B
69－152	柚原B	蓬原字柚原・山ノ後・鶴都古	台地	古墳		旧名：柚原C
69－153	前迫B	山重字前迫	台地	縄文	土器	旧名：前迫
69－154	倉ヶ崎D	山重字倉ヶ崎・松ヶ迫	台地	古墳・古代	土器・土師器	
69－155	堀入	野神字堀入・柳田・山道・川原	台地	弥生・古墳	土師器	
69－156	東上	野神字東上・大代	台地	古代	土師器	
69－157	本森	野神字本森・田尾	台地	縄文・古代	土師器	旧名：大森・大代
69－158	篠迫	野神字篠迫・上荒上	台地	弥生	土器	
69－159	上荒上	野神字上荒上	台地	古代	土師器	
69－160	新馬	野神字新馬・上荒上	台地	弥生	土器	
69－161	上荒B	野神字上荒・下段・上荒上	台地	古代	土師器	
69－162	下段A	野神字下段	台地	古代	土師器	
69－163	中車田	蓬原字中車田・雷田脇	低地	古墳・古代	成川式・須恵器・土師器・古代須恵器・黒穴住居	旧名：大中田
69－164	田尾下	野神字田尾下	台地	古代	土師器	
69－165	上高A	野神字上高・上高下・田尾	台地	縄文(前・晩)・弥生(中) 古墳・古代・中世	曽畑式・黒色磨研土器・貝殿条貝文・刺目突帯文・弥生中期土器・山ノ口式・成川式・土師器・須恵器・古代須恵器・鞴・金属製青銅・鉄付・羅漢像・墨穴住居・墨穴状土坑	志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書(1)
69－166	熊坂	蓬原字熊坂・竹ノ迫	台地	縄文(後)・古墳		旧名：中野・向殿B
69－167	塩水流	伊崎田字塩水流・前谷	台地	古墳・中世	土師器・青磁	
69－168	鹿角	伊崎田字鹿角・二反田	台地	縄文		
69－169	東陵B	伊崎田字東陵	台地	古墳		旧名：東陵
69－170	丸岡B	伊崎田字丸岡	台地	弥生		旧名：丸岡C
69－171	東ノ迫	伊崎田字東ノ迫・上江	台地	古墳		
69－172	十丈	伊崎田字十丈・二方塊	台地	古墳		
69－173	渡ヶ迫	伊崎田字渡ヶ迫・牧	台地	古墳		
69－174	牧	伊崎田字牧・宮免	台地	古墳		旧名：：牧田
69－175	小迫	伊崎田字小迫・鹿角	台地	縄文・古墳		
69－176	川原田	伊崎田字川原田・長迫・大迫	台地	古墳		
69－177	見迫段	伊崎田字見迫段・前迫・中尾	台地	縄文・弥生		
69－178	仮宿A	伊崎田字仮迫・別当	台地	古墳		旧名：別当
69－179	神ノ迫	伊崎田字神ノ迫・鶴前橋・葛ノ段	台地	古墳		旧名：神迫

第6表　周辺遺跡一覧（4）

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
69－180	鶴入	伊崎市字鶴・梅ノ辺	台地	古墳		旧名：伊崎川第A
69－181	石動遺	伊崎市字石動遺・開仮・弓場ヶ迫	台地	古墳		旧名：弓場ヶ迫
69－182	渡	野井倉字渡・一合田・西畑	台地	縄文・古墳		
69－183	中原	野井倉字中原・前原	台地	弥生・古墳	土器・土師器	
69－184	東原	野井倉字東原	台地	弥生・古墳	土器・土師器	
69－185	西原A	野井倉字西原・東原	台地	弥生	土器	
69－186	西原B	野井倉字西原・中原	台地	弥生・古墳	土器・土師器	
69－187	上原	野井倉字上原・東原・西原	台地	弥生・古墳	土器・土師器	
69－188	中尾	野井倉字中尾・西原迫	台地	弥生	土器	
69－189	西原迫A	野井倉字西原迫・上ノ段	台地	古代	土師器	
69－190	西原迫B	野井倉字西原迫	台地	縄文(晩)・弥生	土器	
69－191	上ノ段A	野井倉字上ノ段	台地	弥生	土器	
69－192	上ノ段B	野井倉字上ノ段	台地	弥生	土器	
69－193	上ノ段C	野井倉字上ノ段	台地	古代	土師器	
69－194	上ノ段D	野井倉字上ノ段・宇中	台地	古代	土師器	旧名：井手上B
69－195	上ノ段E	野井倉字上ノ段	台地	弥生	土器	旧名：井手上C
69－196	井手上D	野井倉字井手上	台地	古代	土師器	
69－197	稲付	野井倉字稲付・下段	台地	弥生	土器	
69－198	下段	野井倉字下段	台地	弥生・古墳	成川式・土坑	
69－199	和田上	野井倉字和田上・下段	台地	旧石器・縄文(早)・弥生・古墳	細石刃・剥片類・土器・土師器・石器	
69－200	大園B	蒲原字大園・寺手ノ下	台地	古墳		
69－201	大久保	野神字大久保・鈴ヶ根	台地	弥生	石棒・打製石斧・磨製石斧	
69－202	下原	原田字下原	台地	古墳		
69－203	大堀	原田字大堀・西口・有本・竹塚	台地	縄文・古墳		
69－204	浜場A	野神字浜場・浜辺	台地	縄文(早)・古代		
69－205	前畑	野井倉字前畑	台地	古墳		
69－206	牧ノ上	蒲原字牧ノ上	台地	縄文(早)・古墳	土器片・黒曜石剥片・石鏃	
69－207	下原	伊崎田字下原・後迫	台地	縄文(早・晩)・弥生	縄文早期土器・石製土偶片・磨製石斧	旧名：後迫・下原
68－28	四反田	安楽字四反田	丘陵端	弥生		
68－29	別府	安楽字別府	台地	縄文(早)・弥生(中)		
68－59	上門A	安楽字山角	河岸段丘	縄文(晩)	御領式系・打製石斧・石鏃・磨石・敲石	
68－60	上瓦	安楽字上瓦	河岸段丘	縄文(早)・弥生(中)	御領式・打製石斧・磨石・黒曜石片	
68－61	上門D	安楽字山角	河岸段丘	縄文(晩)	御領式系・打製石斧・石皿・敲石	
68－62	上門B	安楽字山角	河岸段丘	縄文(晩)	御領式系・打製石斧	
68－63	大道	安楽字大道	丘陵端	縄文(早・中)	鹿ノ瀬・阿高式・出水式・轟石・石鏃・石斧	
68－109	中原	安楽字中原・西道・中渡	台地	旧石器・縄文(後)・弥生	角錐状石器・市来式・仲畑式・弥生土器	
68－110	小瀬A	安楽字中原	台地	縄文(後)	市来式・黒曜石片・打製石斧・磨製石斧	
68－111	小瀬B	安楽字中原	台地	縄文(後)・弥生	指宿式・市来式・弥生土器・打製石斧	
68－112	中原（興梠）	安楽 4712-11・4712-6 字中原	台地	旧石器・縄文(早・中・後)・弥生	剥平式・市川式・茂ノ浦式・鹿籠台形石・阿高式・中津式・福田K II式・吉崎K II式・轟式・薄手丸式・一湊彫出式・市来式・鐘ヶ崎式・型崎式・瀬口横・石鏃・ナイフ形石器・磨製石斧類・土器・土製加工品・石製品・砥石・石斧石皿・黒曜石剥片・敲石・打製石斧	志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書(8)
68－113	南葉穴	安楽字岩戸	河岸段丘崖	縄文・磨製石斧・鍬骨		
68－114	高鼻	安楽 1106-1 字高鼻	河岸段丘	縄文(中・後・晩)・古墳・弥生・平安	縄文中期土器・指宿式・市来式・薄手式・黒川系・成川式・七隈器・須恵器・石皿・石鏃・敲石・敲石	志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書(28)
68－115	安良	安楽字外園	河岸段丘	縄文(後)・弥生・平安	大石系・市来式・打製石斧・土師器	
68－116	馬場下	安楽字馬場下	河岸段丘	縄文(早)	吉田式・石鏃式・無文	
68－132	上門C	安楽字山角	河岸段丘	縄文(晩)		
68－133	高鼻	安楽字高鼻	台地	弥生		
68－134	二葉園	安楽字二葉園	台地	弥生		
68－135	神祇原	安楽字神祇原	台地	弥生		
68－136	水ヶ迫	安楽字水ヶ迫	台地	奈良・平安	土師器	
68－144	宮之馬場	安楽字宮内	台地	奈良・平安	土師器・須恵器	
68－148	高吉A	安楽字高吉	台地	縄文・弥生		
68－153	平城	安楽字七本松	台地	弥生	打製石斧	
68－159	小牧八幡群	安楽 539-3-10 字小牧	台地	古墳	土師器・須恵器・鉄石加工品	（町指定）昭59．1．10（1号墳）
68－162	山河宮園	安楽字河口	河岸段丘	平安	仿製鏡・直刀・巻斧・土師器片 1 点	
68－167	神社原	安楽字宮脇	河岸段丘	奈良・平安	土師器・須恵器	
68－168	向江	安楽水神社	低地(谷底)	奈良・平安	土師器	
68－170	山宮神社	安楽百馬場	河岸段丘	奈良	709 年（和銅 2 年）	銅鏡（菅原等身大線鏡）（国指定）大 7．4．8
68－176	安楽城跡	安楽字宮下	河岸段丘	鎌倉		
68－180	倉ヶ迫	安楽字倉ヶ迫	丘陵	弥生		
68－181	七本松	安楽字七本松	丘陵端	弥生		
68－195	八ヶ代	安楽字八ヶ代	河岸段丘	弥生・古墳		
68－198	稲荷上	安楽字稲荷上	台地	縄文(早)・弥生・古墳	成川式	志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書(32)
68－210	宮之上	安楽字宮之上	台地	古代		
68－213	安楽小牧	安楽字小牧	台地	縄文(早)		
67－90	大政	旭町見大政	台地	縄文		



第3図　井手上B遺跡・上ノ段E遺跡・下段遺跡・和田上遺跡　遺跡位置図

第Ⅲ章　確認調査の概要

第１節　確認調査の概要

調査の実施にあたり、井手上Ｂ遺跡･下段遺跡･和田上遺跡が同じ段丘面のほぼ隣接する遺跡であり、また上ノ段Ｅ遺跡も段丘面は異なるが同様に隣接する遺跡であることから、一括して調査を行った。

井手上Ｂ遺跡・下段遺跡・和田上遺跡は事業対象圃場内の任意の位置に、上ノ段Ｅ遺跡は、取水工設置個所にトレンチを設定した。トレンチは２ｍ×４ｍを基調としたトレンチであり、状況に応じて随時調査面積を拡大、縮小して調査を行った。調査は重機の立入可能な圃場には調査員立会いの下、表土及び火山灰層であるⅨ層（Ⅸ－ａ層・Ⅸ－ｂ層・Ⅸ－ｃ層を含むアカホヤ層）・ＸＩ層（サツマ火山灰層）を重機で除去、その他の層は作業員による掘り下げで調査を行った。各トレンチの調査表面積、出土・検出状況等の概要は下表のとおりである。

第７表　確認調査　トレンチ表

井手上Ｂ遺跡

トレンチ	規模（m）	調査表面積	遺物の有無	遺構の有無
1	2.1 × 4.0	8.4 ㎡	**Ｘ－ｄ層**　礫２点	無
2	2.2 × 4.0	8.8 ㎡	無	無
3	2.0 × 3.0	6.0 ㎡	無	無
4	2.0 × 4.0	8.0 ㎡	無	無
5	2.5 × 4.4	11.0 ㎡	無	無

上ノ段Ｅ遺跡

トレンチ	規模（m）	調査表面積	遺物の有無	遺構の有無
1	2.0 × 4.1	8.2 ㎡	無	無

下段遺跡

トレンチ	規模（m）	調査表面積	遺物の有無	遺構の有無
1	2.8 × 3.3	9.24 ㎡	**Ⅱ・Ⅲ－ａ層**　弥生中期土器？ 成川式土器 **土坑２埋土**　弥生中期土器 軽石製品	**Ⅲ－ｂ層上面**　土坑３基
2	3.2 × 6.1	19.52 ㎡	**Ⅱ・Ⅲ－ａ層**　成川式土器 磨石	無
3	2.4 × 2.7	6.48 ㎡	無	無
4	3.4 × 4.4	14.96 ㎡	**土坑３埋土**　成川式土器	**Ⅲ－ｂ層上面**　土坑４基

和田上遺跡

トレンチ	規模（m）	調査表面積	遺物の有無	遺構の有無
1	2.0 × 4.3	8.6 ㎡	**X－a・b・c層**　破砕礫	無
2	2.0 × 4.0	8.0 ㎡	**X－b層**　石坂式土器・磨石？ **X－c層**　縄文早期土器 **X－d層**　破砕礫 **X－e層**　縄文早期土器 剥片・破砕礫 **XⅠ・XⅡ・XⅢ層** 石核・細石刃核・細石刃・作業面再生剥片・微細剥離痕剥片・破砕礫	無
3	2.0 × 4.0	8.0 ㎡	**X－c層**　縄文早期土器 破砕礫・炭化物	無
4	3.4 × 4.4	14.96 ㎡	無	無
5	2.0 × 4.0	8.0 ㎡	無	無

調査の結果、上ノ段Ｅ遺跡は遺物・遺構は全く確認されず、井手上Ｂ遺跡は１トレンチⅨ－ｄ層から礫と判断される遺物が２点確認されたが、他のトレンチからは遺物・遺構は全く確認されず、事業対象区域内に遺跡は存在しないと判断された。

下段遺跡は、遺物が１・２トレンチのⅡ・Ⅲ－ａ層より、弥生中期土器３点、成川式土器４点、磨石１点、１トレンチ土坑２埋土中より、弥生中期土器２点、軽石製品１点、４トレンチの土坑３埋土中より、弥生中期土器５点が確認された。遺構はⅢ－ｂ層上面において、１トレンチに土坑３基、４トレンチに土坑４基、計７基確認され、中には竪穴住居と思われる規模の大きい遺構（土坑５）も確認された。

和田上遺跡は、遺物が１～３トレンチの縄文時代早期に該当するＸ－ｂ・ｃ・ｅ層より縄文時代早期土器４点、Ｘ－ｂ層より磨石１点、Ｘ－ｅ層より黒曜石製の剥片１点、Ｘ－ｄ・ｅ層より破砕焼礫28点、破砕礫12点、礫７点、小礫５点が確認された。さらに２トレンチのＸⅠ層（サツマ火山灰層）直下からＸⅢ層にかけて、黒曜石製の剥片10点、細石刃８点、細石刃核３点、石核２点、微細剥離痕剥片１点、作業面再生剥片１点が確認された。遺構はいずれのトレンチからも確認されなかった。調査の詳細については第Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ章で述べる。

第Ⅳ章　井手上Ｂ遺跡・上ノ段Ｅ遺跡の調査

第１節　確認調査の概要

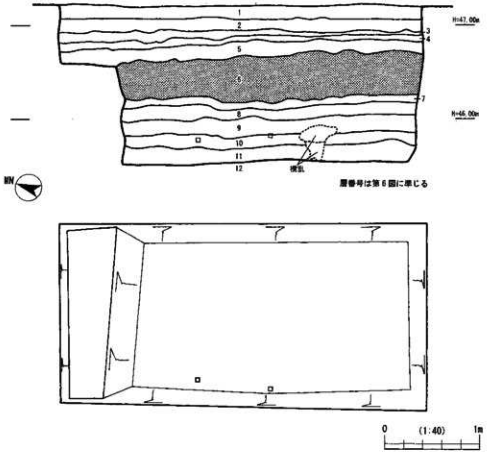
井手上Ｂ遺跡は菱田川東岸の標高 45 mの第２段丘面上にあり、比較的第３段丘面の崖裾に近い所に立地し、上ノ段Ｅ遺跡は菱田川東岸の標高 77 mの第３段丘面の西端部に立地する。両遺跡は段丘崖を挟んで東西に並ぶように位置する遺跡である。

確認調査は、井手上Ｂ遺跡は調査対象区域内に存在する遺跡範囲内の任意の地点に５ヶ所のトレンチを設定、１Ｔが 2.1m × 4.0 m（8.4 ㎡）、２Ｔが 2.2 m × 4.0 m（8.8 ㎡）、３Ｔが 2.0 m × 3.0 m（6.0 ㎡）、４Ｔが 2.0 m × 4.0 m（8.0 ㎡）、５Ｔが 2.5 m × 4.4 m（11.0 ㎡）の調査を行った。上ノ段Ｅ遺跡は５ m ×10 m規模の取水口設置箇所の範囲内に１Ｔを設定、2.0 m × 4.1 m（8.2 ㎡）の調査を行なった。

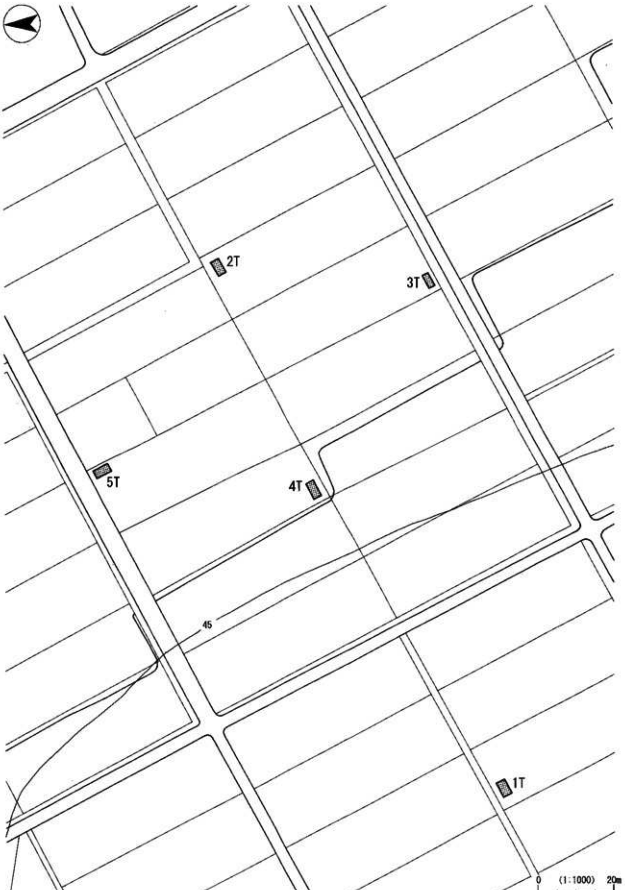
第２節　確認調査の成果

第Ⅲ章でも述べたとおり、井手上Ｂ遺跡からは１トレンチⅨ－ｄ層から礫と判断される遺物が２点のみ確認され（第４図）、上ノ段Ｅ遺跡からは遺物・遺構は確認されなかった。

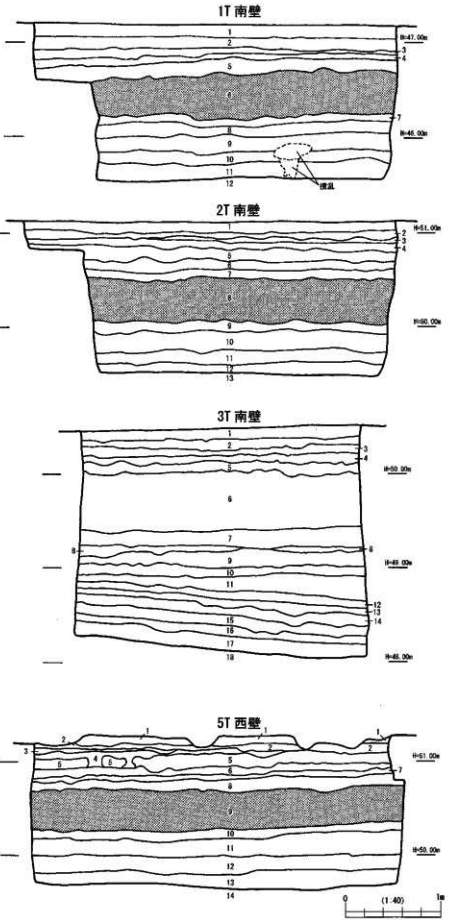
ここでは、遺物・遺構等について特出する事項がないことから各トレンチの削平状況・土層の残存状況等について述べたい。



第４図　井手上Ｂ遺跡　確認調査　１Ｔ　遺物出土状況図及び土層断面図



第5図　井手上B遺跡　確認調査　トレンチ位置図



第6図　井手上B遺跡　確認調査　1・2・3・5T　土層断面図

井手上B遺跡　トレンチ層位

1Tの西壁土層断面

1	黒褐色 (10YR2/1) 土	1～a層。表土層で現中に木炭（粒径2mm大）をわずかに含む。
2	オリーブ褐色 (5Y3/1) 土	1～b層。酒粕 パン。かなり固くた土壌で層中に粘性とした微砂分と思われるお変質が層中に現状に含まれる。
3	黒色 (2.5Y2/1) 土	1b～a層。層中に鉄色 (7.5YR6/8 粒径2mm大) パススを含む傾まった土層。
4	黒色 (2.5Y2/1) 土	1b層。層中にテララ・パススなどは見られない傾まった土層。
5	黒色 (2.5Y2/1) 土	1b層。酒粕 泡状黒下粘石層。黄褐色 (10YR6/6) テララは見き出す様ではなく、層中にわずかに見られる。
6	明黄褐色 (10YR6/6) 土	2b層。酒粕 アカホヤ層。かなり硬くもした層で、層の下部には黒褐色 (10YR7/8) テララが見き出す。
7	オリーブ黒色 (5Y3/2) 土	2a～b層。テララ・パススは殆んど見出たらない。炭に見り黒き色の硬く傾まった。
8	黒色 (5Y2/1) 土	2a～b層。層中に鉄分に浮遊するように粘質褐色 (10YR6/4 粒径1～2mm大) パススを含むかなり硬く傾まった層。
9	黒褐色 (2.5Y3/1) 土	2a～b層。層の様子は層に似るが、層色は少し明るく、テララの含有が強く、パススの粒は小さいがなり硬く傾まった層。
10	黒褐色 (2.5Y3/1) 土	2a～b層。層の様子は層に似るが、テララの含有は強く、パススの粒は小さいがなり硬く傾まった層。
11	にぶい黄褐色 (10YR6/3) 土	2a～b層。層色は10番より明るく、テララの含有・大きさは10番に似る。層が全体的に薄り、かなり硬く傾まった層。
12	にぶい黄褐色 (10YR6/4) 土	2c1層。酒粕 サツマ火山灰層。かなり硬く傾まる層。ブロック状形成状態見られない。

2Tの西壁土層断面

1	黒灰色 (2.5Y4/1) 土	1～a層。表土層。硬く傾まり、層中に白色粒石 (5Y8/1 粒径2～5mm大) を含む。
2	黒灰色 (2.5Y4/1) 土	1～b層。酒粕 パン。表土層よりも硬く傾まる層。層中に1層に含まれる粒石がまざれる。
3	黒色 (1.5Y2/1) 土	1b層。テララ・パススの見あたらない傾まった層。
4	オリーブ黒色 (5Y3/1) 土	1b～a層。層中に炭粒色 (10YR7/6) パススを含む傾まった層。
5	オリーブ黒色 (5Y3/1) 土	1b～a層。層の様子は4層に似るが、層中に褐色色 (10YR7/6) パススを多き し、より傾まった層。
6	黒色 (10Y2/1) 土	1b層。テララ・パススは殆んど見られない傾まった層。
7	暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 土	1b層。酒粕 泡状黒下粘石層。黄褐色 (10YR6/6) テララは見き出す様ではなく、層中にわずかに見られる。
8	明黄褐色 (10YR6/6) 土	2b層。酒粕 アカホヤ層。かなり硬くもした層で、層の下部には黒褐色 (10YR7/8) テララが見き出す。
9	黒色 (7.5Y2/1) 土	2a～b層。テララ・パススは見られない中や粘性をもつ傾まった層。
10	黒色 (2.5Y2/1) 土	2a～b2c～d層。層中に褐黄褐色 (10YR6/8 粒径1～2mm大) テララが多き含まれる硬く傾まった層。
11	褐褐色 (2.5Y3/1) 土	2c～d層。層の様子は10番に似るが、テララが多き し、より傾まった層。
12	にぶい黄褐色 (10YR6/3) 土	2c～d層。層色は薄くなり、テララの含有も減る。
13	にぶい黄褐色 (10YR6/4) 土	2c1層。酒粕 サツマ火山灰層。かなり硬く傾まる層。ブロック状形成状態見られない。

3Tの西壁土層断面

1	オリーブ黒色 (7.5Y3/2) 土	1～a層。表土層。硬く傾まり、層中に白色粒石 (5Y8/1 粒径2～5mm大) を含む。
2	オリーブ黒色 (10Y3/1) 土	1～b層。酒粕 パン。表土層よりも硬く傾まる層。層中に1層に含まれる粒石がまざれる。
3	黒色 (5Y2/1) 土	1b層土層。
4	黒色 (5.0Y2/1) 土	1b層土層。
5	褐黒色 (10BG7/1) 土	1b層土層。
6	黒色 (7.5Y2/1) 土	2b1層。層中にガ・ラ質が混じる層。
7	黒色 (7.5Y4/1) 土	2b層土層。
8	オリーブ黒色 (5Y3/1) 土	2b層。層中にテララ・パススは殆んど見られない傾まった層。
9	黒色 (10Y2/1) 土	2b層。層中にテララ・パススは殆んど見られない傾まった層。
10	オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 土	2b層。層中にテララ・パススは殆んど見られない。より傾まる層。
11	黒色 (5Y2/1) 土	2b層。層中にテララ・パススは殆んど見られず、層の下部には鉄色に光沢が見られる。
12	黒色 (N2/0) 土	2b1層。12層と層の様子は似るが、光沢は比較的少ない。
13	オリーブ黒色 (10Y3/1) 土	2c～a層。層中に薄かに褐色 (7.5YR6/6 直径1～2mm程度) パススを含む傾まった層。
14	オリーブ黒色 (10Y3/1) 土	2c～a層。14層に似るがパススがより多き含む層。
15	黒色 (10Y2/1) 土	2c層。層中にテララ・パススを含まない傾まった層。
16	オリーブ褐色 (5Y3/1) 土	2c層。酒粕 泡状黒下粘石層。黄褐色 (10YR6/6) テララは見き出す様ではなく、層中にわずかに見られる。
17	明黄褐色 (10YR6/6) 土	2c層。酒粕 アカホヤ層。かなり硬くもした層で、層の下部には黒褐色 (10YR7/8) テララが見き出す。

5Tの西壁土層断面

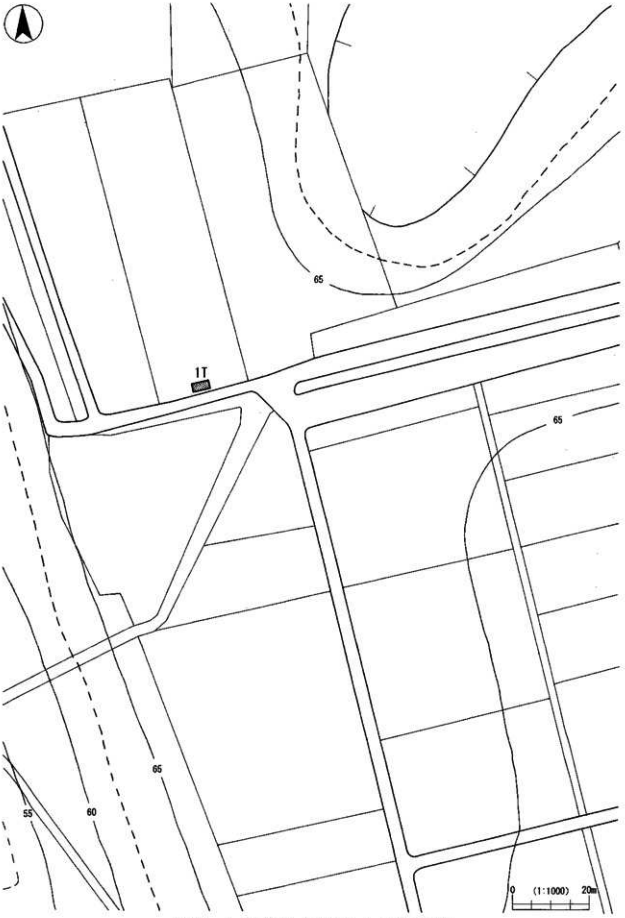
1	オリーブ黒色 (7.5Y3/2) 土	1～a層。表土層。硬く傾まり、層中に白色粒石 (5Y8/1 粒径2～5mm大) を含む。
2	オリーブ黒色 (10Y3/1) 土	1～b層。酒粕 パン。表土層よりも硬く傾まる層。層中に1層に含まれる粒石がまざれる。
3	黒色 (10Y2/1) 土	1b層。テララ・パススは殆んど見られず、層に光沢がわずかに見られる。
4	オリーブ黒色 (10Y3/1) 土	1b～a層。層中に薄かに褐色 (7.5YR6/6 直径1～2mm程度) パススを含む傾まった層。
5	オリーブ黒色 (10Y3/1) 土	1b～a層。4層に似るがパススがより多き含む。
6	黒色 (10Y2/1) 土	1b～a層。層中にテララ・パススを含まない傾まった層。層に光沢的光沢が見られる。
7	黒色 (10Y2/1) 土	1b～a層。層の様子は7層と酷似傾向だが、層がより硬き。
8	オリーブ黒色 (5Y3/1) 土	1b層。酒粕 泡状黒下粘石層。黄褐色 (10YR6/6) テララは見き出す様ではなく、層中にわずかに見られる。
9	明黄褐色 (10YR6/6) 土	2b層。酒粕 アカホヤ層。かなり硬くもした層で、層の下部には黒褐色 (10YR7/8) テララが見き出す。
10	黒色 (7.5Y2/1) 土	2a～b層。テララ・パススは見られない中や粘性をもつ傾まった層。
11	褐黒色 (2.5Y2/1) 土	2a～b層。層中に褐色褐色に浮遊するように粘質褐色 (10YR6/4 粒径2～4mm大) パススを含む。層色はより明るく、テララの含有が増で、硬く傾まった層。
12	褐黒色 (2.5Y3/1) 土	2a～b層。層色は11層より明るく、テララの含有は減る。パススの粒は11層より大きいがなり硬く傾まった層。
13	にぶい黄褐色 (10YR6/3) 土	2a～b層。層色は12層より明るく、テララの含有・大きさは12層に似る。層が全体的に薄り、かなり硬く傾まった層。
14	にぶい黄褐色 (10YR6/4) 土	2c1層。酒粕 サツマ火山灰層。かなり硬く傾まる層。ブロック状形成状態見られない。

井手上B遺跡は、弥生時代・古墳時代の遺物包含層であるⅢ－ａ層がほとんど残存していなかった。１ＴがⅤ層まで完全に削平を受けており、Ⅵ層も大きく削平を受けていた。２ＴはⅣ層まで完全に削平を受けており、Ⅴ層も大きく削平を受けていた。３Ｔは比較的土層の残存状況がよく、Ⅱ層上面で一部削平が見受けられる程度であったが遺物は確認出来なかった。４Ｔも比較的土層の残存状況がよく、３Ｔ同様Ⅱ層上面で一部削平が見受けられる程度であった。５ＴがⅣ層まで完全に削平を受けており、Ⅴ層も大きく削平を受けていた。

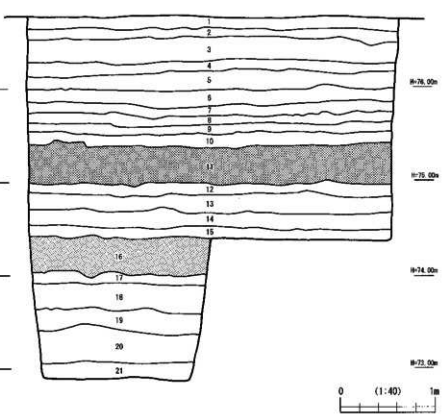
上ノ段Ｅ遺跡は、掘削範囲が狭小なため、調査は１Ｔのみであった。比較的層の残存状況がよく、Ⅱ層まで完全に削平を受けていたが、Ⅲ層上面で一部削平が見受けられる程度であった。

第３節　確認調査の結果

調査の結果、事業対象区域内に遺跡は存在しないことが判明した。



第7図　上ノ段E遺跡　確認調査　トレンチ位置図



1 オリーブ黒色（2.5Y3/2）土　1～4層、表土層。緩く締まり、層中に白色細石（5YR/1 粒径2～5mm）を含む。

2 オリーブ黒色（10Y2/1）土　1～5層、旧耕作土。1～4層よりも白色細石（5Y8/1 粒径2～5mm）を多く含む傾向の土層。

3 オリーブ黒色（10Y3/1）土　1～4層、旧耕作土。1～4層より白色細石（5Y8/1 粒径2～5mm）が比較的少ない傾向の土層。

4 オリーブ黒色（7.5Y2/1）土　表層。層中に褐色炭化粒子（5Y5/1 粒径1～2mm大）をわずかに含む傾向の土層。
V層。層中にテフラ・パミスはほとんど見られず、若干わずかに光沢が見られる。

5 黒色（N1/2/1）土

6 黒色（N1/3/1）土　V層。層中にテフラ・パミスはほとんど見られず、若干光沢がわずかに見られる。

7 オリーブ黒色（10Y3/1）土　V2～4層。層中に淡白に褐色（7.5YR5/4 直径1～2mm程度）パミスを含む傾向の土層。

8 オリーブ黒色（N3/1）土　V5～6層。7層に比べ白色パミスが少き多で、よく締まった土層。

9 黒色（10Y2/1）土　V7層。テフラ・パミスはほとんど見られず、光沢のある締まった層。

10 オリーブ黒色（5Y3/1）土　V8層。通例、浦幌平野で最低層。褐色（10YR5/6）テフラは密な状態ではなく、層中にわずかに見られた。

11 明褐褐色（10YR5/6）土　IV～V層。通例、浦幌平野で最低層。褐色（10YR5/6）テフラが密な状態。
IV～V層。層中に黒色炭化粒子（5Y2/1 粒径2～5mm）を含む。

12 黒色（7.5Y2/1）土　IV～V層。テフラ・パミスは見られないやや粘性をもつ締まった層。

13 黒褐色（2.5Y3/1）土　IV～V層。層中に黒色炭化粒子（10YR6/8 粒径1～2mm大）と白色パミスを含む。かなり緩く締まった層。
IV～V層。層中に黒色炭化粒子（10YR6/8 粒径3～4mm大）パミスを含む。間色はより明るく、テフラの色味はやや強くなるも、かなり緩く締まった層。

14 黒褐色（2.5Y3/1）土

15 にぶい黄褐色（10YR5/3）土　IV～V層。褐色は14層より明るく、テフラの含有・大きさは14層に似る。層が全体的に薄い。かなり緩く締まった層。

16 にぶい黄褐色（10YR6/4）土　IV1層。通例、テツヤ火山灰層。かなり硬く締まる層。ブロック状形成は見られない。

17 暗赤灰色（5R4/1）土　IV2層。強い粘性をもち、ねっとりとした締まった層。

18 赤灰色（5R5/1）土　IV3層。17層よりもかなり強い粘性があり、固く緩く締まる。

19 赤灰色（5R5/1）土　IV4層。黒に黒い斑点のようが見られる緩く締まった層。

20 明黄褐色（10YR6/8）土　IV7層。黒に黒りは見られず、粘性も強くなる傾向を示した。

21 黄褐色（10YR6/8）土　IV8層。シラスの上面海面層と思われ、緩く締まり、粘性もなくサラサラとした層。

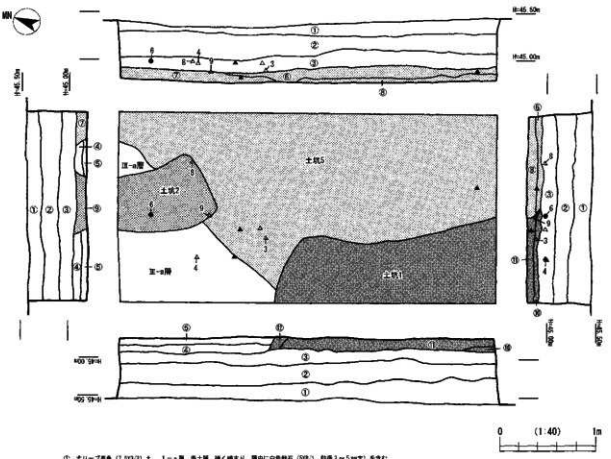
第8図　上ノ段E遺跡　確認調査　1T　土層断面図

第Ⅴ章　下段遺跡の調査

第1節　確認調査の概要

下段遺跡は菱田川東岸の標高43 mの第2段丘面上にあり、比較的第3段丘面の崖裾に近い所に立地した遺跡である。

確認調査は、事業対象区域内に存在する遺跡範囲内の任意の地点に4ヶ所のトレンチを設定、1Tが2.8m × 3.3 m（9.24 ㎡）、2Tが3.2 m × 6.1 m（19.52 ㎡）、3Tが2.4 m × 2.7 m（6.48 ㎡）、4Tが3.4 m ×4.4 m（14.96 ㎡）の調査を行った。

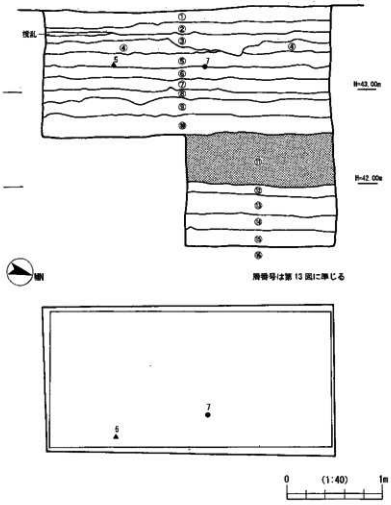


①　オリーブ黒色（7.5Y3/2）土　1～a層。表土層。暗く締まり、層中に白色軽石（SP8/1）粒径2～5mm大）を含む。
②　オリーブ黒色（10Y3/1）土　1～a層。耕盤作土。1～a層より白色軽石（SP8/1）粒径2～5mm大）がお転的少ない傾向あった層。
③　オリーブ黒色（10Y3/1）土　1～a層。耕盤作土。層の様子は3T南に近る戸白色軽石（SP8/1）粒径2～5mm大）が全体的に見り、より暗く締まった層。
④　黒色（N2/1）土　1層。層中にテフラ・パミスはほとんど見られない傾向あった層。
⑤　オリーブ黒色（7.5Y3/1）土　Ⅲ-a層。部分に酸化鉄黄色粒子（SY6/8　粒径1～2mm大）を含有する傾向あった層。
⑥　オリーブ黒色（10Y3/1）土　土坑1埋土。ホクホクとした黒ボクの強い層。
⑦　オリーブ黒色（5Y3/1）土　土坑1埋土。部分にカチカチに第1～a層に含まれる浮軽石パミスが含まれるやうやうした層。
⑧　オリーブ黒色（10Y3/1）土　土坑1埋土。よく締まった黒ボクの強い層。
⑨　黒色（10Y2/1）土　土坑2埋土。層中の所々にアカホヤの粒が点在するホクホクした層。
⑩　黒色（10Y2/1）土　土坑1埋土。全体的色が低しられる締まった層。
⑪　オリーブ黒色（7.5Y3/1）土　土坑1埋土。比較的やうやうとした傾きった層。
⑫　オリーブ黒色（5Y3/1）土　土坑1埋土。層中におずかに第1～a層に含まれる浮軽石パミスが含まれるやうやうした層。

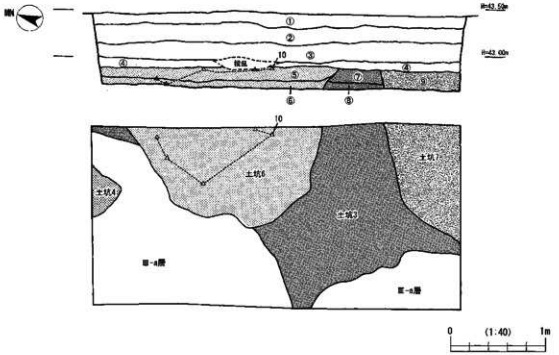
第9図　下段遺跡　確認調査　1T　遺物出土状況図及びⅢ－b層上面遺構検出状況図

第２節　確認調査の成果

１Ｔは、Ⅱ層が一部削平を受けていたが、比較的土層の残存状況は良好であった。Ⅱ層より弥生中期土器２点、成川式土器１点の計３点、Ⅲ－ａ層より成川式土器２点、弥生中期土器１点、計３点が確認された。またⅢ－ｂ層上面で遺構が確認され、土坑３基（土坑１・２・５）を検出した。（第９図）なお、土坑２埋土に弥生中期土器２点（８・９）と軽石製品１点（６）計３点が確認された。従って土坑２は弥生時代中期以降の土坑の可能性があり、切り合いの関係にある土坑５も同様に弥生時代中期以降の土坑であることが推測される。また土坑１に関しては、土坑５と切り合いの関係にあるが時代を特定できる遺物等確認できず、土層断面に見られる土坑の立ち上がりをみても、表土層による削平を受けており、土坑５よりも新しい時期の遺構であることは言及できる。また、いずれの遺構も調



第１０図　下段遺跡　確認調査　２Ｔ　遺物出土状況図及び土層断面図



① オリーブ黒色（7.5Y3/2）土　1～2層。粘土層。暗く締まり、層中に白色粒状（7.5Y8/1　粒径2～5mm大）を含む。
② オリーブ黒色（10YR2/1）土　砂質土層で粒状となった部分もあり、層中に三角に焦られる縦状が多数ある層。
③ オリーブ黒色（10YR2/1）土　1～2層。砂質作土。①層よりも白色粒状（7.5Y8/1　粒径2～5mm大）が比較的少ない層状った層。
④ オリーブ黒色（10YR2/1）土　1～2層。砂質作土。層の様子は①に似るが白色粒状（5Y8/1　粒径2～5mm大）が含まれず多い。より暗く締まった層。
⑤ 黒色（7.5YR2/1）土　土坑4埋土。層中にわずかに第～a層に焦られる縦状パミスが含まれるサラサラした層。
⑥ 黒色（10YR2/1）土　土坑4埋土。層の様子は⑤に似るがよく締まった層。
⑦ 黒色（10YR2/1）土　土坑5埋土。ホラボクとした感がりのない層。
⑧ オリーブ黒色（7.5Y3/1）土　土坑5埋土。層中にわずかに第～a層に焦られる縦状パミスが含まれるサラサラした層。
⑨ 黒色（10YR2/1）土　土坑7埋土。ブ層に似るが、よりホラボクとした感がりのない層。

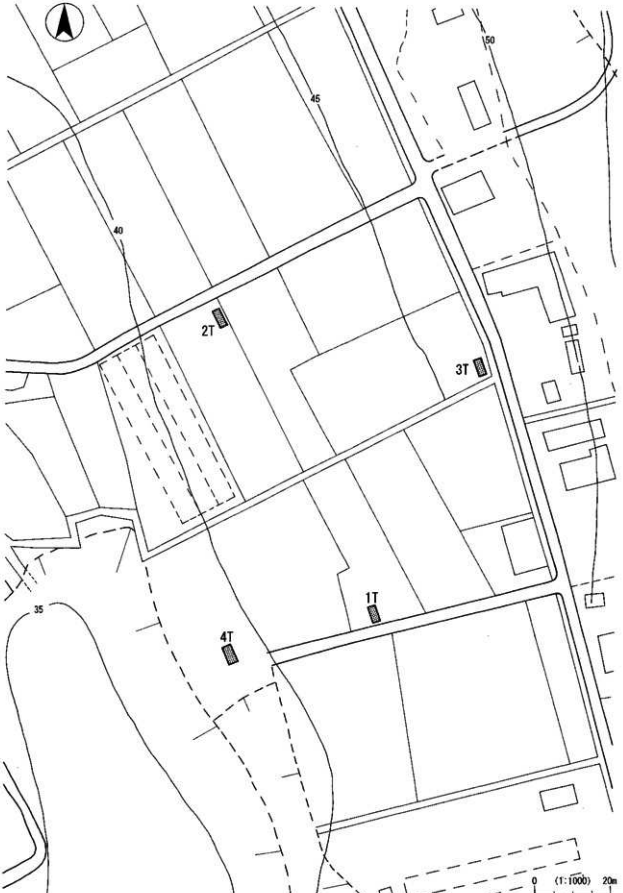
第１１図　下段遺跡　確認調査　４Ｔ　遺物出土状況図及びⅢ－ｂ層上面遺構検出状況図

査区外に遺構プランが延びており、土坑の性質・用途については不明であるが、土坑５については遺構プランも比較的大きく、竪穴住居の可能性も否めない。

２Ｔは、Ⅲ－ａ層まで削平を受けており、わずかに残存したⅢ－ａ層より成川式土器１点、磨石（７）１点、計２点が確認されたが、遺物数も少なく流れ込みと思われる。また、遺構は確認できなかった。

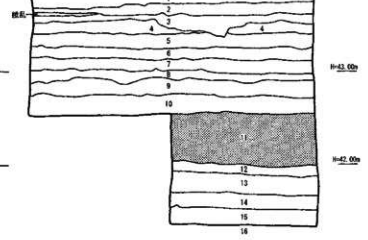
３Ｔは、Ⅱ層が一部削平を受け、比較的土層の残存状況は良好であったが、遺物・遺構は確認されなかった。

４Ｔは、Ⅱ層が一部削平を受け、比較的土層の残存状況は良好であった。包含層からの遺物出土は認められなかったが、Ⅲ－ｂ層上面で遺構が確認され、土坑４基（土坑３・４・６・７）を検出した。（第11図）なお、土坑６埋土に弥生中期土器５点（同一個体と思われる）が確認された。従って土坑６は弥生時代中期以降の土坑の可能性があり、切り合いの関係にある土坑３も同様に弥生時代中期以降の土坑であることが推測される。また土坑７に関しては、土坑３と切り合いの関係にあるが時代を特定できる遺物等確認できず、土層断面に見られる土坑の立ち上がりをみても、表土層による削平を受けており、土坑３よりも新しい時期の遺構であることは言及できる。また、土坑４に関しては埋土中に遺物が確認できず、他の遺構との切り合いが見られないため、使用時期の特定は困難である。いずれの遺構も調査区外に遺構プランが延び、土坑の性質・用途については不明である。



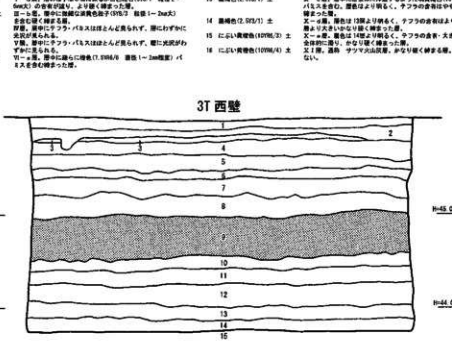
第12図　下段遺跡　確認調査　トレンチ位置図

2T 西壁



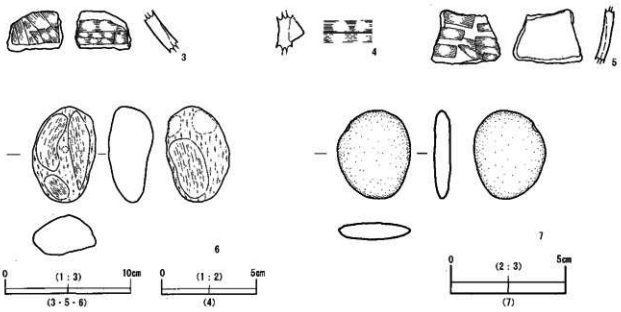
1 オリーブ黒色(7.5Y3/2) 土　I～ⅥⅠ層、表土層、硬く締まり、層中に白色軽石(5YR/1 粒径2～5mm大)を含む。
2 オリーブ黒色(10Y3/1) 土　I～Ⅱ層、遺跡 パン、表土層よりも硬く締まる層。層中に1層に含まれる軽石が含まれる。
3 オリーブ黒色(10Y3/1) 土　I～Ⅲ層、遺跡埋土、I～Ⅱ層より白色軽石(5YR/1 粒径2～5mm大)が比較的少ない硬質な層。
4 オリーブ黒色(10Y3/1) 土　I～Ⅲ層、層の硬さは3層に似るが白色軽石(5YR/1 粒径2～6mm大)が多く含まれ、より硬く締まった層。
5 オリーブ黒色(7.5Y3/1) 土　Ⅱ～Ⅳ層、層中に微細な炭黒色粒子(5YR/2 粒径1～2mm大)を含む硬く締まる層。
6 黒色(10Y2/1) 土　Ⅳ層、層中にテフラ・パミスはほとんど見られず、層に光沢がわずかに見られる。
7 黒色(10Y2/1) 土　Ⅴ層、層中にテフラ・パミスはほとんど見られず、層に光沢がわずかに見られる。
8 オリーブ黒色(10Y3/1) 土　Ⅵ～Ⅶ層、層中に最も小粒色(7.5YR6/8 褐色1～2mm程度)パミスを含む硬まった層。
9 オリーブ黒色(10Y3/1) 土　Ⅶ～Ⅷ層、8層におけるパミスよりも多く、より硬まった層。
10 オリーブ黒色(5Y2/1) 土　地層、遺構 池田第7地区層、褐色粒(10YR6/6) テフラは層を成す層ではなく、層中に浮遊するように見られる。
11 明黄褐色(10YR6/6) 土　Ⅹ～Ⅺ層、遺構 アカホヤ層、かなり硬もした層で、層の下位には黄褐色(10YR7/8) テフラが層を成す。
12 黒色(7.5Y2/1) 土　Ⅹ～Ⅺ層、テフラ・パミスは見られないやや粘性をもつ硬まった層。
13 黒褐色(2.5Y3/1) 土　Ⅹ～Ⅺ層、層中に層全体に浮遊するように明黄褐色(10YR6/6 粒径3～4mm大)パミスを含む。遺跡はより硬く、テフラの含有はやや多くである。かなり硬く締まった層。
14 黒褐色(2.5Y3/1) 土　Ⅹ～Ⅺ層、粒色は13層より明るく、テフラの含有はより硬く、パミスの粒は13層よりも大きいかなり硬く締まった層。
15 にぶい黄褐色(10YR6/3) 土　Ⅹ～Ⅺ層、粒色は14層より明るく、テフラの含有・大きさは14層に似る。層が全体的に浮い、かなり硬く締まった層。
16 にぶい黄褐色(10YR6/4) 土　Ⅹ～Ⅺ層、遺跡 サツマ火山灰層、かなり硬く締まる層。ブロック状形成は見られない。

3T 西壁



1 オリーブ黒色(7.5Y3/2) 土　I～Ⅲ層、表土層、硬く締まり、層中に白色軽石(5YR/1 粒径2～5mm大)を含む。
2 オリーブ黒色(10Y3/1) 土　I～Ⅲ層、遺跡 パン、表土層よりも硬く締まる層。層中に1層に含まれる軽石が含まれる。
3 黒色(10Y2/1) 土　Ⅱ層、層中にテフラ・パミスはほとんど見られない硬まった層。
4 オリーブ黒色(7.5Y3/1) 土　Ⅲ～Ⅳ層、層中に微細な炭黒色粒子(5YR/2 粒径1～2mm大)を多き下る硬まった層。
5 黒色(10Y2/1) 土　Ⅴ層、層中にテフラ・パミスはほとんど見られず、層に光沢がわずかに見られる。
6 オリーブ黒色(10Y3/1) 土　Ⅵ～Ⅶ層、層中に最も小粒色(7.5YR6/8 褐色1～2mm程度)パミスを含む硬まった層。
7 オリーブ黒色(10Y3/1) 土　Ⅵ～Ⅶ層、8層に似るがパミスがより多く、よく硬まった層。
8 オリーブ黒色(5Y3/1) 土　地層、遺構 池田第7地区層、褐色粒(10YR6/6 粒径5～20mm)テフラが層の中位に薄く層を成し、層に粘りを感じる。
9 明黄褐色(10YR6/6) 土　Ⅹ～Ⅺ層、遺構 アカホヤ層、かなり硬もした層で、層の下位には黄褐色(10YR7/8) テフラが層を成す。
10 黒色(7.5Y2/1) 土　Ⅹ～Ⅺ層、テフラ・パミスは見られないやや粘性をもつ硬まった層。
11 黒褐色(2.5Y3/1) 土　Ⅹ～Ⅺ層、層中に層全体に浮遊するように明黄褐色(10YR6/6 粒径1～2mm大)と白色パミスを含む。かなり硬く締まった層。
12 黒褐色(2.5Y3/1) 土　Ⅹ～Ⅺ層、層中に層全体に浮遊するように明黄褐色(10YR6/6 粒径3～4mm大)パミスを含む。粒色は9層よりも硬く、テフラの含有はやや多くもある。かなり硬く締まった層。
13 黒褐色(2.5Y3/1) 土　Ⅹ～Ⅺ層、粒色は12層よりも明るく、テフラの含有・大きさは13層に似る。層が全体的に浮い、かなり硬く締まった層。
14 にぶい黄褐色(10YR6/3) 土　Ⅹ～Ⅺ層、粒色は12層より明るく、テフラの含有・大きさは13層に似る。層が全体的に浮い、かなり硬く締まった層。
15 にぶい黄褐色(10YR6/4) 土　Ⅹ～Ⅺ層、遺構 サツマ火山灰層、かなり硬く締まる層。ブロック状形成は見られない。

第13図　下段遺跡　確認調査　2・3T　土層断面図



第14図　下段遺跡　確認調査　Ⅲ－ａ層出土遺物

第3節　確認調査の結果

確認調査の結果、調査対象区域の南側（1・4Ｔ付近）に、弥生時代中期・古墳時代の遺物包含層が確認され、土坑もⅢ－ｂ層上面において7基確認された。この土坑の中には竪穴住居の可能性があり、比較的規模の大きい遺構も確認された。このことから調査対象区域の南側に細く延びる舌状台地の末端に遺構を伴う弥生時代中期・古墳時代の遺跡が存在している可能性がある。

出土遺物

土器

3・4は1ＴⅢ－ａ層で出土した弥生中期土器である。3は壷の胴部である。器壁の内外面を工具によりナデ磨いている。4は器種が不明であるが、胴部と思われる。極めて小片で、外面に三角突帯が貼り付く。5は2ＴⅢ－ａ層で出土した成川式土器で鉢の胴部である。8・9は1Ｔ土坑2埋土で出土した弥生中期土器である。8は甕の口縁部である。二叉状口縁を呈し、外反する。9は壷の胴部

第15図　下段遺跡　確認調査　土坑内出土遺物

である。内面の調整は粗なナデである。10は4T土坑3埋土で出土した壷の底部である。底面は平底で、胴部外面をナデ磨いている。比較的器壁は薄い。

第8表　下段遺跡　確認調査　土器観察表

挿図番号	番号	注記番号	出土T 出土層（遺構）	器種	部位	分類	胎土 石英	雲	外耀	礫	赤	砂	色調 上段：外面 下段：内面		施文・調整 上段：外面 下段：内面		法量（cm） 口径	底径	器高	備考
第14図	3	確 804	1T Ⅲ－a層	壷	胴部	弥生中期土器	○	○	○	○		○	5YR5/4	にぶい赤褐色	板ナデ後ナデ磨き		-	-	3.4	
													5YR5/4	にぶい赤褐色	横ナデ後ナデ磨き					
第14図	4	確 808	1T Ⅱ層	?	胴部	弥生中期土器		○	○	○		○	10YR5/3	にぶい黄褐色	横ナデ		-	-	1.7	外面に煤付着
													10YR3/1	黒褐色	ナデ					
第14図	5	確 802	2T Ⅲ－a層	鉢	胴部	底川式土器		○				○	10YR6/4	にぶい黄橙色	板ナデ後ナデ消し		-	-	4.1	内面に黒斑
													10YR3/2	黒褐色	ナデ					
第15図	8	確 810	1T 十坑2	甕	口縁部	弥生中期土器	○	○		○	○	○	5YR5/6	明赤褐色	横ナデ		-	-	3.0	外面に煤付着
													5YR5/6	明赤褐色	横ナデ					
第15図	9	確 809	1T 十坑2	壷	胴部	弥生中期土器	○	○		○		○	5YR5/6	明赤褐色	ナデ		-	-	4.0	
													2.5YR6/4	にぶい黄褐色	ナデ					
第15図	10	確 816	4T 土坑3	壷	底部	弥生中期土器	○	○		○	○	○	5YR5/6	橙色	ナデ磨き・ナデ		-	7.2	9.6	
													10YR7/4	にぶい黄橙色	板ナデ後ナデ・ナデ					

石器

6は1T土坑2埋土出土の軽石製品である。磨石的な使用によるものか、磨り痕が顕著である。7は2TⅢ－a層出土の磨石で、扁平な形状である。

第9表　下段遺跡　確認調査　石器計測表

挿図番号	番号	注記番号	出土T	出土層（遺構）	器種	石質	法量（cm・g） 最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
第14図	6	確 811	1T	土坑2埋土	軽石製品	軽石	7.60	3.00	3.50	22.630	
第14図	7	確 801	2T	Ⅲ－a層	磨石	砂岩	3.85	3.10	0.70	14.630	

第Ⅵ章　和田上遺跡の調査

第１節　確認調査の概要

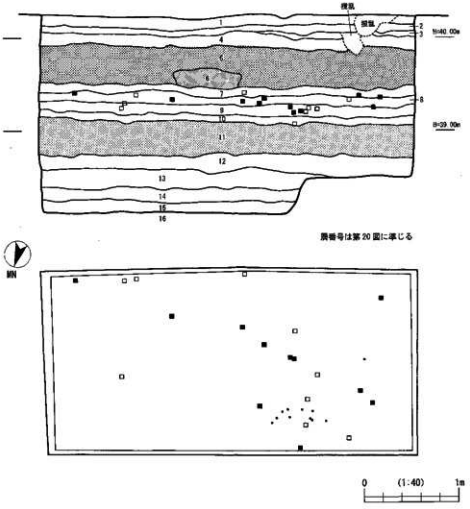
和田上遺跡は菱田川東岸の標高40ｍの第２段丘面上にあり、段丘面のほぼ中央に近い舌状台地の基部に立地した遺跡である。

確認調査は、調査対象区域内に存在する遺跡範囲内の任意の地点に５ヶ所のトレンチを設定して行った。１Ｔが2.0m×4.3ｍ（8.6㎡）、２Ｔが2.0ｍ×4.0ｍ（8.0㎡）、３Ｔが2.0ｍ×4.0ｍ（8.0㎡）、４Ｔが3.4ｍ×4.4ｍ（14.96㎡）、５Ｔが2.0ｍ×4.0ｍ（8.0㎡）の調査を行った。

第２節　確認調査の成果

１Ｔは、Ⅵ層まで完全に削平を受け、Ⅶ層も大きく削平を受けていた。遺物はＸ－ａ・ｂ・ｃ層より破砕礫20点が出土したが、遺構は確認出来なかった。

２Ｔは、Ⅳ層まで完全に削平を受け、Ⅴ層も大きく削平を受けていた。遺物はＸ－ｂ層より石坂式土器の脚部（32）１点、Ｘ－ｅ層より、詳細な分類は不明であるが縄文時代早期土器（33）１点が出土した。またＸ－ａ・ｂ・ｃ・ｄ・ｅ層より破砕礫44点を確認し、これらの破砕礫のうち10点は磨



第16図　和田上遺跡　確認調査　１Ｔ　遺物出土状況図及び土層断面図

石等の石器が破砕したと思われる、礫の外面に丸みを帯び、磨痕を伴うものも見られた。また、サツマ火山灰層（Ⅹ Ⅰ層）の直下及びⅩⅡ・ⅩⅢ層より、黒曜石製の剥片10点（うち6点を実測 26～31)、細石刃8点（18～25)、細石刃核3点（13～15)、石核2点（11･12)、作業面再生剥片1点（16)、微細剥離痕剥片1点（17）が確認された。その他、破砕礫5点が出土した。遺構はそれぞれの検出面では確認出来なかったが、Ⅹ－b層付近に破砕礫の出土が多く、その出土状況が散石状に分布している事から、付近に集石遺構がある可能性も否定できない。

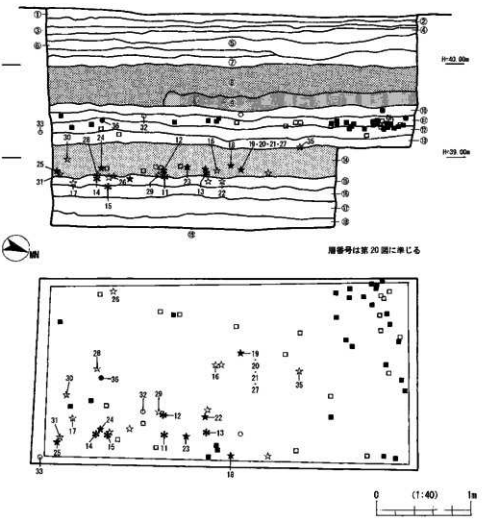
3Tは、Ⅳ層まで削平を受け、Ⅴ層、場所によってはⅥ－a層も大きく削平を受けていた。遺物はⅩ－c層より寒ノ神式土器の底部（34）1点、破砕礫3点が確認され、Ⅹ－e層上面で多数の炭化物が広範囲に出土した。(第18図）遺構は確認出来なかった。

4TはⅥ－a層まで削平を受け、Ⅵ－b層も一部削平が見られた。遺物･遺構は確認出来なかった。

5Tは、Ⅶ層まで削平を受け、Ⅷ層も一部削平が見られた。遺物・遺構は確認出来なかった。

第3節　確認調査の結果

調査の結果、調査対象区域の南側（1～3T付近）から、石坂式土器・様式不明の縄文早期土器を含む縄文時代早期の遺物が確認されている。特に2T付近は遺物出土が比較的密であり、南側に細く



第17図　和田上遺跡　確認調査　2T　遺物出土状況及び土層断面図

延びる舌状台地の末端に縄文時代早期の遺跡が存在することが考えられる。

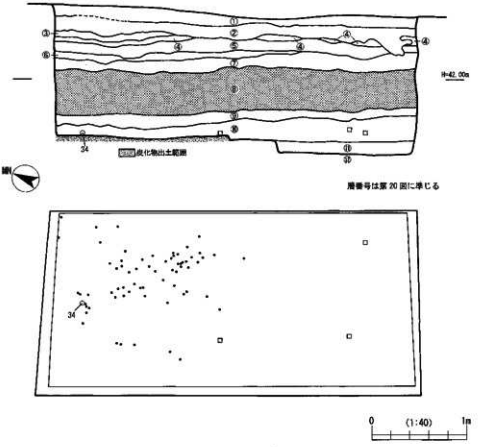
さらに２Ｔからは旧石器時代相当層（XⅡ・XⅢ層）から細石刃を含む黒曜石製の石器も確認されており、旧石器時代の包含層の広がりは不明ではあるが、２Ｔを含めたその周辺に旧石器時代の遺跡が同様に存在していることが考えられる。

出土遺物

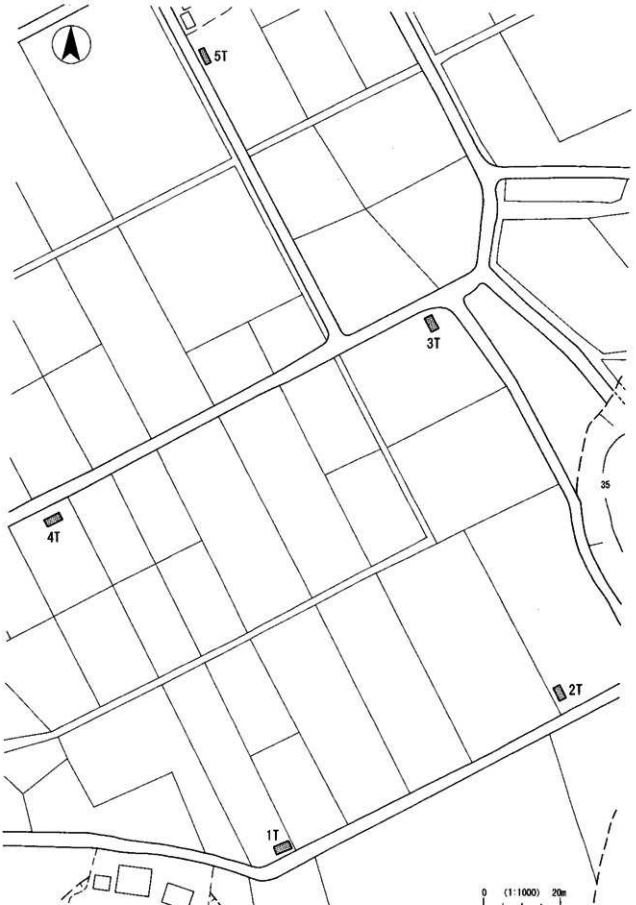
XⅡ・XⅢ層出土石器

XⅡ・XⅢ層より出土した石器群(11～31)は黒曜石製である。石材の産地については不明であるが、黒曜石内にわずかに泡沫が見られることから県内産の可能性が高い。石核２点、細石刃核３点、細石刃８点、作業面再生剥片１点、微細剥離痕剥片１点、剥片11点が確認され、うち21点を図化した。

なお、XⅡ・XⅢ層出土石器の詳細な観察については、鹿児島大学埋蔵文化財調査室　特任助教　寒川朋枝氏に依頼し、第Ⅶ章で述べる。

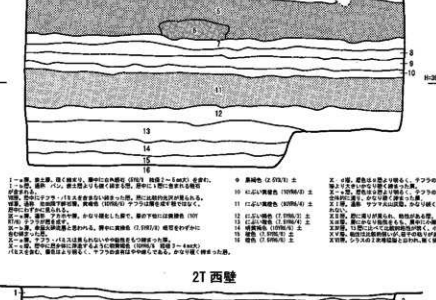


第18図　和田上遺跡　確認調査　３Ｔ　遺物出土状況図及び土層断面図



第19図　和田上遺跡　確認調査　トレンチ位置図

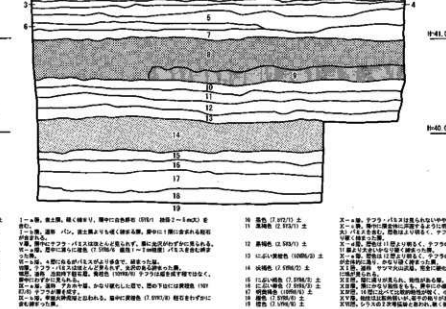
1T 南壁



1 オリーブ褐色 (7.5Y5/2) 土
2 オリーブ褐色 (10YR3/1) 土
3 黒色 (10YR2/1) 土
4 オリーブ褐色 (5Y3/1) 土
5 明黄褐色 (10YR6/6) 土
6 灰黄褐色 (10YR5/2) 土
7 黒色 (7.5YR2/1) 土
8 黒褐色 (2.5Y3/1) 土
9 黒褐色 (2.5Y3/1) 土
10 にぶい黄色 (10YR6/4) 土
11 にぶい黄色 (10YR6/4) 土
12 にぶい橙色 (7.5YR6/3) 土
13 にぶい橙色 (7.5YR6/4) 土
14 明黄褐色 (10YR6/6) 土
15 褐色 (7.5YR4/6) 土
16 褐色 (7.5YR4/6) 土

1～4層、表土層。暗く様変り、帯中に白色粒状 (5YR/1 粒径2～4mm) を含む。
5～8層、遺物 パン、表土及よりも暗く様変る層。帯中に1層に含まれる粒状が含まれる。
9層、白色化タフ＋パミスを含まない様変った層。西に高野地区が見られる。
10層、遺物 陶器類が多く、ヤマツ山遺跡。黄褐色 (10YR6/6) タフラは層を成す程ではなく、帯中にかすかに見られる。
11層、遺物 陶器類が多く、ヤマツ山遺跡。黄褐色 (10YR6/4) タフラは層を成す程ではなく、帯中にかすかに見られる。
12層、遺物 アカホヤ等、かなり様変りした層で、帯の下部には炭層色 (10YR2/1) タフが含まれる。
13層、表土層。赤色中流土とされ、西に高野地区 (2.5YR3/4) 相当をわずかに含まれる。
14層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られないが中粒性を示す層。
15層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られないが中粒性を示す層。
16層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られないが中粒性を示す層。
Z－6層、遺物は不明。タフ＋パミスは見られないが中粒性を示す層。
Z－7層、遺物 パン、表土及よりも暗く様変る層。帯中に1層に含まれる粒状が含まれる。
Z－8層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない。タフラの含有・大きさは様々。西に高野地区 (2.5YR3/4) 相当をわずかに含まれる。
Z－9層、遺物 ヤマツ山遺跡。かなり様変る層。ブロック状形成は見られない。
Z－10層、西に様変り状態なれ、物性がある層。
Z－11層、西に様変り状態なれ、物性がある層。
Z－12層、西に様変り状態なれ、物性がある層。
Z－13層、西に様変り状態なれ、物性がある層。
Z－14層、西に様変り状態なれ、物性がある層。
Z－15層、遺物 ヤマツ山遺跡。西に様変り状態なれ、物性がある層。
Z－16層、遺物 ヤマツ山遺跡。西に様変り状態なれ、物性がある層。
Z－17層、遺物 ヤマツ山遺跡。西に様変り状態なれ、物性がある層。
Z－18層、遺物 ヤマツ山遺跡。西に様変り状態なれ、物性がある層。
Z－19層、遺物 ヤマツ山遺跡。西に様変り状態なれ、物性がある層。

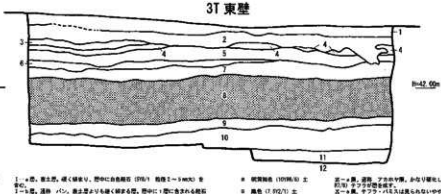
2T 西壁



1 オリーブ褐色 (7.5Y5/2) 土
2 オリーブ褐色 (10YR3/1) 土
3 黒色 (10YR2/1) 土
4 オリーブ褐色 (5Y3/1) 土
5 オリーブ褐色 (10YR3/1) 土
6 黒色 (10YR2/1) 土
7 オリーブ褐色 (5Y3/1) 土
8 明黄褐色 (10YR6/6) 土
9 炭黄褐色 (10YR5/2) 土
10 にぶい黄色 (10YR6/4) 土
11 にぶい黄色 (10YR6/4) 土
12 黒褐色 (2.5Y3/1) 土
13 にぶい黄色 (10YR6/3) 土
14 灰褐色 (7.5YR4/2) 土
15 にぶい褐色 (7.5YR5/3) 土
16 にぶい褐色 (7.5YR5/3) 土
17 明黄褐色 (10YR6/6) 土
18 褐色 (7.5YR4/6) 土
19 褐色 (7.5YR4/6) 土

1～4層、表土層。暗く様変り。帯中に白色粒状 (5YR/1 粒径2～4mm) を含む。
5～7層、遺物 パン、表土及よりも暗く様変る層。帯中に1層に含まれる粒状が含まれる。
8層、帯中にタフ＋パミスは見られない。西に高野地区 (2.5YR3/4) 相当をわずかに含まれる。
9層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない。西に高野地区 (2.5YR3/4) 相当をわずかに含まれる。
10～11層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない。西に高野地区 (2.5YR3/4) 相当をわずかに含まれる。
12層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない。西に高野地区 (2.5YR3/4) 相当をわずかに含まれる。
13～14層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない。西に高野地区 (2.5YR3/4) 相当をわずかに含まれる。
15～16層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない。西に高野地区 (2.5YR3/4) 相当をわずかに含まれる。
17～18層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない。西に高野地区 (2.5YR3/4) 相当をわずかに含まれる。
19層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない。西に高野地区 (2.5YR3/4) 相当をわずかに含まれる。
Z－1層、遺物 ヤマツ山遺跡。西に様変り状態なれ、物性がある層。
Z－2層、遺物 ヤマツ山遺跡。西に様変り状態なれ、物性がある層。
Z－3層、西に様変り状態なれ、物性がある層。
Z－4層、遺物は不明。タフ＋パミスは見られない中粒性を示す層。
Z－5層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない中粒性を示す層。
Z－6層、西に様変り状態なれ、物性がある層。
Z－7層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない中粒性を示す層。
Z－8層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない中粒性を示す層。
Z－9層、西に様変り状態なれ、物性がある層。
Z－10層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない中粒性を示す層。
Z－11層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない中粒性を示す層。
Z－12層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない中粒性を示す層。
Z－13層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない中粒性を示す層。
Z－14層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない中粒性を示す層。
Z－15層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない中粒性を示す層。
Z－16層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない中粒性を示す層。
Z－17層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない中粒性を示す層。
Z－18層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない中粒性を示す層。
Z－19層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない中粒性を示す層。

3T 東壁



1 オリーブ褐色 (7.5Y5/3) 土
2 オリーブ褐色 (10YR3/1) 土
3 黒色 (10YR2/1) 土
4 オリーブ褐色 (5Y3/1) 土
5 オリーブ褐色 (10YR3/1) 土
6 黒色 (10YR2/1) 土
7 オリーブ褐色 (5Y3/1) 土
8 明黄褐色 (10YR6/6) 土
9 黒色 (7.5Y2/1) 土
10 黒褐色 (2.5Y3/1) 土
11 にぶい黄色 (10YR6/4) 土
12 にぶい黄色 (10YR6/4) 土

1～4層、表土層。暗く様変り。帯中に白色粒状 (5YR/1 粒径2～4mm) を含む。
5～8層、遺物 パン、表土及よりも暗く様変る層。帯中に1層に含まれる粒状が含まれる。
9層、帯中にタフ＋パミスは見られない。西に高野地区 (2.5YR3/4) 相当をわずかに含まれる。
10層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない。西に高野地区 (2.5YR3/4) 相当をわずかに含まれる。
11～12層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない。西に高野地区 (2.5YR3/4) 相当をわずかに含まれる。
Z－1層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない中粒性を示す層。
Z－2層、帯中に帯状に含まれる粒状物質 (10YR2/1) 粒径2～4mm が含まれ、層は暗く様変る。ブロック状形成は見られない。
Z－3層、遺物は不明。タフ＋パミスは見られない中粒性を示す層。
Z－4層、遺物は不明。タフ＋パミスは見られない中粒性を示す層。
Z－5層、帯中に帯状に含まれる粒状物質 (10YR2/1) 粒径2～4mm が含まれ、層は暗く様変る。ブロック状形成は見られない。
Z－6層、遺物は不明。タフ＋パミスは見られない中粒性を示す層。
Z－7層、遺物は不明。タフ＋パミスは見られない中粒性を示す層。
Z－8層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない中粒性を示す層。
Z－9層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない中粒性を示す層。
Z－10層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない中粒性を示す層。
Z－11層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない中粒性を示す層。
Z－12層、遺物 陶器類。タフ＋パミスは見られない中粒性を示す層。

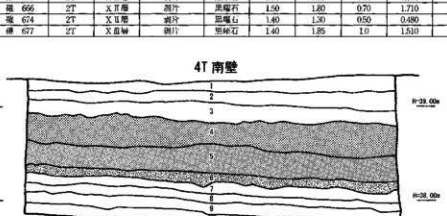
0 (1:40) 1m

第20図 和田上遺跡 確認調査 1・2・3T 土層断面図

第10表　和田上遺跡　確認調査　XⅡ・XⅢ層出土　石器計測表

検図番号	番号	注記番号	出土グリッド	出土層（遺構）	器種	石質	法量（cm・g） 最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
第22図	11	縄 661	2T	XⅡ層	石核	黒曜石	1.17	1.72	0.81	1.367	
第22図	12	縄 665	2T	XⅡ層	石核	黒曜石	1.65	0.90	0.90	1.350	
第22図	13	縄 669	2T	XⅡ層	剥片	黒曜石	1.40	0.83	1.60	1.621	
第22図	14	縄 679	2T	XⅡ層	剥片剥離	黒曜石	1.23	1.35	0.70	0.984	
第22図	15	縄 689	2T	XⅡ層	剥石剥離	黒曜石	1.35	1.65	1.12	1.721	
第22図	16	縄 656	2T	XⅡ層	作業面再生剥片	黒曜石	1.42	1.09	0.63	0.580	
第22図	17	縄 675	2T	XⅡ層	微細剥離痕剥片	黒曜石	1.76	1.32	0.42	0.780	
第22図	18	縄 654	2T	XⅡ層	剥石剥	黒曜石	0.79	0.48	0.21	0.075	
第22図	19	縄 655－1	2T	XⅡ層	剥片剥	黒曜石	0.83	0.56	0.13	0.048	
第22図	20	縄 655－3	2T	XⅡ層	剥石剥	黒曜石	0.90	0.33	0.19	0.073	
第22図	21	縄 655－4	2T	XⅡ層	剥石剥	黒曜石	0.78	0.64	0.20	0.088	
第22図	22	縄 668	2T	XⅡ層	剥石剥	黒曜石	0.74	0.56	0.21	0.058	
第22図	23	縄 669	2T	XⅡ層	剥石剥	黒曜石	1.07	0.68	0.20	0.100	
第23図	24	縄 672	2T	XⅡ層直下	剥片剥	黒曜石	1.01	0.59	0.19	0.082	
第23図	25	縄 676	2T	XⅡ層	剥石剥	黒曜石	1.01	0.75	0.22	0.099	
第23図	26	縄 669	2T	XⅡ層	剥片	黒曜石	2.35	2.71	0.62	2.352	
第23図	27	縄 655－2	2T	XⅡ層	剥片	黒曜石	0.83	0.77	0.55	0.157	
第23図	28	縄 670	2T	XⅡ層	剥片	黒曜石	1.10	1.80	0.50	0.600	
第23図	29	縄 666	2T	XⅡ層	剥片	黒曜石	1.50	1.80	0.70	1.710	
第23図	30	縄 674	2T	XⅡ層	剥片	黒曜石	1.40	1.30	0.50	0.480	
第23図	31	縄 677	2T	XⅡ層	剥片	黒曜石	1.40	1.85	1.0	1.510	

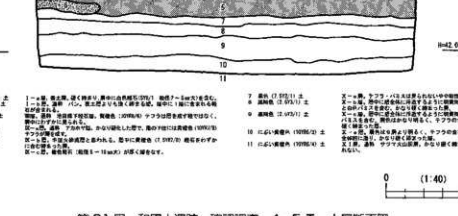
4T南壁



1　オリーブ黒色（7.5Y3/2）土
2　オリーブ黒色（10YR3/1）土
3　オリーブ黒色（5Y3/1）土
4　明黄褐色（10YR6/8）土
5　灰黄褐色（10YR6/2）土
6　明色（7.5YR5/8）土
7　黒色（7.5Y2/1）土
8　黒褐色（2.5Y3/1）土
9　黒色（2.5Y2/1）土
10　にぶい黄褐色（10YR5/3）土
11　にぶい黄褐色（10YR5/4）土

1～4層、粗土質、硬く締まり、層中に自然粒石（5YR1）、粒径2～5mmを含む。
5～8層、層中に細かく粒状（7.5YR5/8）、直径1～2mm程度）パミスを多く含む。
9層、粗土質、粒径5mmを超す粒石層、黄色（10YR5/8）テフラは混ざる程ではなく、部分的にかすかに見られる。
10～11層、黒色、アロフェリック、かなり軟でしとも強く、層の下部には直径約（10YR5/8）テフラが見られる。
10～11層、層厚が約30cmとかなり大きい。ヤノ内遺跡から検出された層中、黒中に黒曜石（7.5YR2/2）、直径約5mmの炭化物が多くみられる。
10～11層、層中粒石（粒径5～10mm）が多く見られる。
7～8層、テフラ・パミスは見られないが中粒粒石を含む硬まった層。
7～8層、層中に黒色部に混ざりるように粒状（5YR5/8）、直径1～4mm）パミスを含む。粒径は2mmを超えず、テフラ中の色味は中間から白色。かなり硬まった層。
9～10層、粗色は粒状（5YR5/8）、テフラ中色味は中間から白色。パミスの粒径は最大5mmかかなり硬まった層。
9～10層、粗色は多量に含まれるが、テフラの色味・大きさは部分的なる。層の厚さはかなりと、かなり硬く締まった層。
11層、通常、テフラ・パミスは混ざる。かなり硬く締まる層。ブロック状形成は見られない。

5T西壁

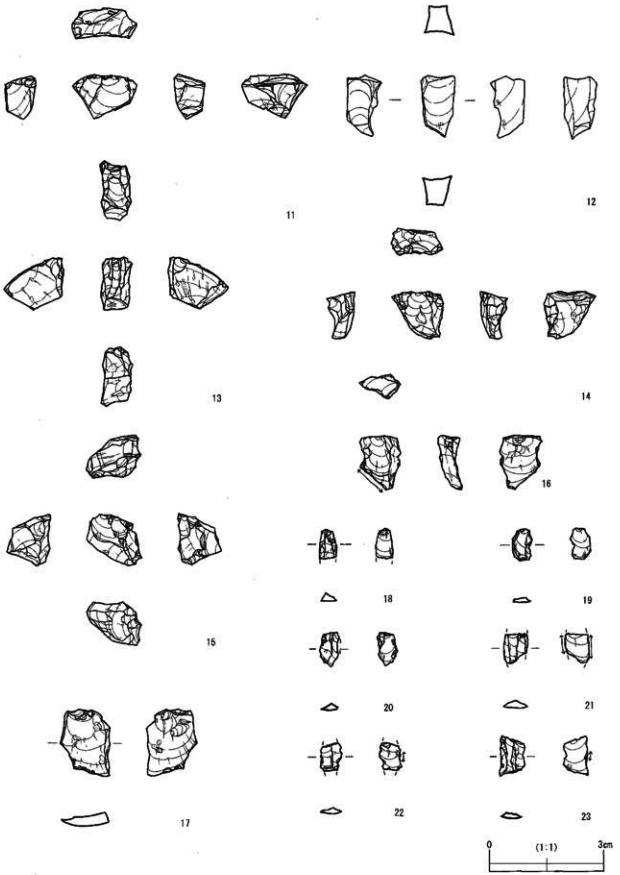


1　オリーブ黒色（7.5Y3/2）土
2　オリーブ黒色（10YR3/1）土
3　オリーブ黒色（5Y3/1）土
4　明黄褐色（10YR6/8）土
5　灰黄褐色（10YR6/2）土
6　明色（7.5YR5/8）土
7　黒色（7.5Y2/1）土
8　黒褐色（2.5Y3/1）土
9　黒色（2.5Y2/1）土
10　にぶい黄褐色（10YR5/3）土
11　にぶい黄褐色（10YR5/4）土

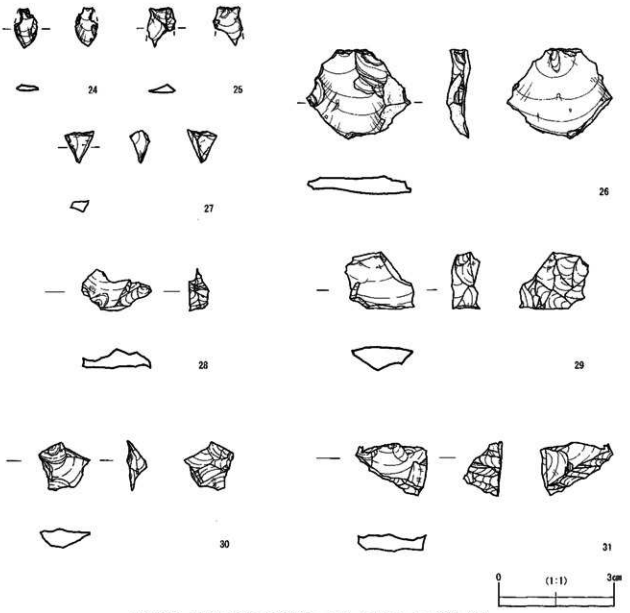
1～4層、粗土質、硬く締まり、層中に自然粒石（5YR1）、粒径2～5mmを含む。
5～8層、通常、パミスは多くは含まず、層中に1個に数点含まる程度が見られる。
9層、黒色、粗色層で粒状層、粒径5（10YR5/8）テフラは混ざる程ではなく、部分的にかすかに見られる。
10～11層、通常、テフラ中色味は、かなり硬まった層で、層の下部には直径約（10YR5/8）テフラが見られる。
10～11層、層厚が約30cmとかなり大きい。層中に黒曜石（7.5Y2/2）、直径約5mmの炭化物が多くみられる。
10～11層、層中粒石（粒径5～10mm）が多く見られる。
7～8層、テフラ・パミスは見られないが中粒粒石を含む硬まった層。
7～8層、層中に黒色部に混ざりるように粒状（5YR5/8）、直径1～4mm）パミスを含む。粒径は2mmを超えず、テフラ中の色味は中間から白色。かなり硬まった層。
9～10層、粗色は粒状（5YR5/8）、テフラ中色味は中間から白色。パミスの粒径は最大5mmかかなり硬まった層。
9～10層、粗色は多量に含まれるが、テフラの色味・大きさは部分的なる。層の厚さはかなりと、かなり硬く締まった層。
11層、通常、テフラ・パミスは混ざる。かなり硬く締まる層。ブロック状形成は見られない。

0　(1:40)　1m

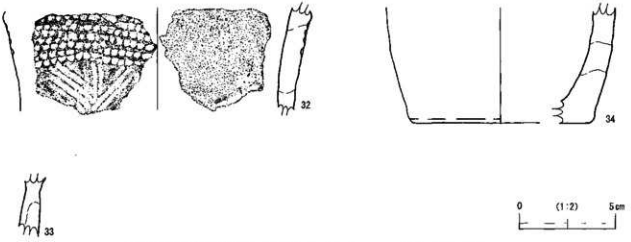
第21図　和田上遺跡　確認調査　4・5T　土層断面図



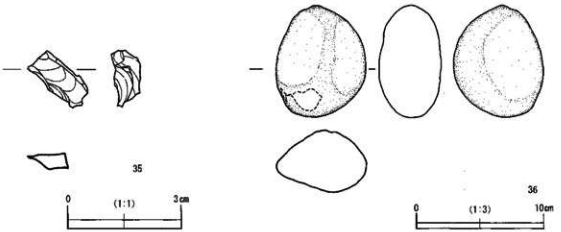
第22図　和田上遺跡　確認調査　XII・XIII層　出土遺物（1）



第23図　和田上遺跡　確認調査　XⅡ・XⅢ層　出土遺物（2）



第24図　和田上遺跡　確認調査　X－b・c・e層　出土土器



第25図　和田上遺跡　確認調査　X－b・e層　出土土器

X－b・c・e層出土土器

縄文時代早期層であるX－a～e層より土器が4点出土した。うち3点を図化した。32・33は胴部が残存する。32は、外面上位に貝殻刺突文、外面下位に綾杉状貝殻条痕文が施文され、石坂式土器と思われる。33は小片であり、施文は見当らない。内面をナデ磨いている。外面に頸部と思われる屈曲部が確認できる。様式は不明である。34は底部が残存する。施文は見当らず、接合面が脆かったためか底面が丸ごと抜け落ちている。窯ノ神式土器の可能性がある。

第11表　和田上遺跡　確認調査　X－b・c・e層出土　土器観察表

博図番号	番号	注記番号	出土T 出土層（遺構）	器種	部位	分類	胎土 石・英	雲	角・ノ郡	雲	赤	砂	色調 上段：外面 下段：内面		施文・調整 上段：外面 下段：内面	法量（cm） 口径	底径	器高	備考
第24図	32	確 606	2T X－b層	深鉢	胴部	石坂式土器	○	○		○		○	7.5YR6/6	橙色	施文：貝殻刺突文 綾杉状貝殻条痕文 調整：無	－	－	5.35	
													7.5YR5/6	橙色	施文：無 調整：ナデ				
第24図	33	確 601	2T X－c層	深鉢？	胴部	縄文早期土器		○		○		○	2.5YR5/4	にぶい黄色	施文：無 調整：ナデ	－	－	3.1	
													2.5YR6/4	にぶい黄色	施文：無 調整：ナデ磨き				
第24図	34	確 649	3T X－c層	深鉢	底部	縄文早期土器	○	○		○		○	5YR6/6	橙色	施文：無 調整：ナデ	－	9.2	6.0	窯ノ神式の底部の可能性あり
													7.5YR6/6	橙色	施文：無 調整：ナデ				

X－b・e層出土石器

35は黒曜石製の剥片である。サツマ火山灰層（XⅠ層）の直上で出土した。小片であり、石材はXⅡ・XⅢ層で出土した石器群に類似する。36は磨石と思われる。拳大で、表面・底面に磨痕が見られる。

第12表　和田上遺跡　確認調査　X－b・e層出土　石器計測表

博図番号	番号	注記番号	出土T	出土層（遺構）	器種	石質	法量（cm・g） 最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
第25図	35	確 648	2T	X－e層	剥片	黒曜石	1.50	1.60	0.70	0.710	
第25図	36	確 605	2T	X－b層	磨石？	凝灰岩	8.8	7.0	4.9	290.10	

第Ⅶ章　和田上遺跡出土の旧石器時代遺物について

寒川　朋枝（鹿児島大学　埋蔵文化財調査室　特任助教）

石材は、黒曜石Ａ（不純物を多く含みガラス質が強い。基質はアメ色を呈するが、まれに灰色などを呈するものや縞状の流理が認められるものもある。三船産に類似する）を主体とし、黒曜石Ｂ（アメ色で不純物が少なく、ガラス質が強い。桑ノ木津留系に類似する）も少数みられる。

細石刃とその使用痕

細石刃は、頭部～中間部が４点、中間部が４点みられる。打面は４点とも平坦である。７点は黒曜石Ａで、23の１点のみが黒曜石Ｂである。

24は微小剥離痕と線状痕が認められる。線状痕は刃部に平行する方向のものが、腹面上部バルブ付近に特に密集してみられる（写真１－24e･a）。24bの画像では、線状痕の密集部との境界が確認できる。腹面下部にも線状痕は認められるが（写真１－24c）、バルブ付近に比べて密集度は低い。また、背面側には微小剥離痕はみられるが、線状痕はまばらに確認されるのみである（写真１－24f）。左側縁上半部は欠損しており、その下部は腹面左側縁部に比べてまとまった線状痕はみられない（写真１－24d）。

20は、縦断面がしの字状になるやや湾曲した細石刃であるが、微小剥離痕と線状痕が認められる。特に、背面左側縁部に刃部に平行する線状痕がまとまって観察され、右側縁部には部分的に割れが認められる。腹面右側縁の線状痕はまばらである。微小剥離痕（極小～小サイズのうろこ形）は背面左側縁・腹面右側縁すなわち一側縁側に特に認められる。また、湾曲した尾部付近にも線状痕が認められる（写真２－20d）。これらの観察から、微小剥離痕や線状痕がみられない背面右側縁部はシャフトに被われていたことが想定される。

微小剥離痕は７点の細石刃にみられ、一側縁側のみにみられるもの（18・19・20・23）と両側縁側にみられるもの（22・21・24）がある。剥離痕のサイズと平面形態は、１㎜以下の極小～小サイズのうろこ形が主体を占め、22･24などでは0.5～２㎜の小～中サイズの三日月形の微小剥離痕もみられる。

23は黒曜石Ｂ類に類似する石材を素材とし、下面に自然面を残す。打面は欠損しているが、作業面の長さはほぼこの長さと思われる。

細石刃核

細石刃核は２点みられた。石材は２点とも黒曜石Ａ類である。

13は板状の剥片を素材とする細石刃核である。石核調整はみられず、左右側面・背面ともに広く剥離面がみられる。下部は欠損している。打面調整は明瞭でないが、打面中央部に作業面に垂直方向の線状痕が少数であるが観察される。細石刃は小口面より剥離されている。

14も同じく扁平な剥片を素材とする。細石刃剥離は小口面より行われるが、剥離痕は短い。背面に側縁からの剥離がみられる。打面は右側面側から形成され、小さな剥離も認められる。右側面には打面側からの小剥離も認められ、やや大きな剥離面がみられる。

石核・剥片類

15は打面がやや傾斜した細石刃核の可能性があるが、作業面から剥離されている剥片の幅が大きく不明瞭であるため、石核とした。左側縁部には背面からの剥離がみられ、背面側の稜には部分的に潰れや微小剥離痕が認められる。11は石核調整がなく、打点も明瞭ではない。一側縁に一部潰れを伴う微小剥離痕がみられる。

16・26・31は剥片、27はチップである。26は黒曜石Ｂ類に類似する。剥片剥離作業中に生じた剥片であり、上下左右面に自然面をわずかに残す。剥片表面にはランダムなキズが多く、側縁部には剥離が認められる。16は調整剥片と思われるが、背面左側縁下部に連続する極小の微小剥離痕が認められる。

写真１　No.24　細石刃使用痕

f

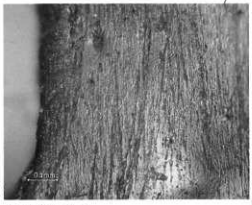
微小剥離痕

e

線状痕密集部

網掛部は線状痕分布域
―― 連続する微小剥離痕
― ― まばらな微小剥離痕

0　1cm



a

線状痕密集部

c

線状痕

線状痕密集部

b

線状痕

d

写真２　№20　細石刃使用痕

a

微小剥離痕・線状痕

c

線状痕

0　1cm

網掛部は線状痕分布域
―――― 連続する微小剥離痕
― ― ― まばらな微小剥離痕

d

線状痕

b

線状痕密集部

e

線状痕・潰れ

第Ⅷ章　調査のまとめ

はじめに

井手上Ｂ遺跡・上ノ段Ｅ遺跡・下段遺跡・和田上遺跡の確認調査は県営経営体育成基盤整備事業野井倉下段地区に伴い、平成20年度に確認調査を実施した遺跡である。井手上Ｂ遺跡・上ノ段Ｅ遺跡・下段遺跡・和田上遺跡のうち、遺物・遺構が確認された下段遺跡・和田上遺跡に関しては設計変更により、埋蔵文化財の保護が図られるため、確認調査で終了することとなった。このとき上記遺跡の他に井手上Ａ遺跡も同様に確認調査を行い、遺物・遺構が確認された。しかし対象地の設計変更が困難であることから平成21年度より本調査を実施することとなったため、井手上Ａ遺跡の成果報告については以後行うこととなる。調査のまとめは遺物・遺構の確認された下段遺跡・和田上遺跡についてまとめを述べたい。

第１節　下段遺跡

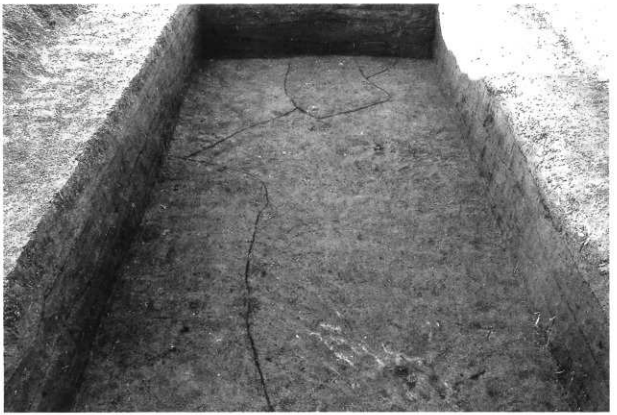
下段遺跡からは、１・４Ｔより、遺構内遺物及びⅢ－ｂ層上面で土坑７基が確認された。調査範囲が狭小なため、Ⅲ－ｂ層上面での遺構全体のプランを確認することができなかったが、検出されたプランから隅丸長方形を呈すると思われる土坑が２基（土坑１・７）、大型の竪穴状遺構と思われる土坑が１基（土坑５）確認されている。第Ⅴ章でも述べたが、調査対象区域の南側に細く延びる舌状台地の北端に遺構を伴う弥生時代中期・古墳時代の遺跡が存在していると思われ、竪穴住居を含めた生活遺構及び遺物が舌状台地の南端に向って広がっている可能性がある。

第２節　和田上遺跡

和田上遺跡からは、２・３Ｔより遺物点数は少ないが縄文時代早期中葉の石坂式土器に比定される胴部片（32）、縄文時代早期後葉の塞ノ神式土器と思われる底部片（34）がそれぞれ１点確認された。土器の出土密度が薄いためはっきりしたことは言えないが、縄文時代早期中葉から後葉にかけての遺物包含層が舌状台地の北東側に存在すると思われる。また、１～３Ｔからは X－ａ・ｂ・ｃ・ｄ・ｅ層のそれぞれの層から破砕礫を含む礫総数67点が確認された。その分布は１・２Ｔに非常に多く、サツマ火山灰層上面でのレベルを比較すると、２･３Ｔ（遺跡東側）から１･４Ｔ（遺跡西側）に向って緩やかに下る地形であり、流れ込みがあった可能性も否めない。従って、舌状台地北側と台地の付け根付近に縄文時代早期の生活遺構を含めた遺物包含層と生活面が存在し、埋蔵文化財の立地条件から考えると今回調査を行った箇所より南側に縄文時代早期中葉から後葉にかけての遺物包含層の広がりが考えられる。また、旧石器群の広がりは２Ｔのみで確認されているが、調査範囲が狭小なため、遺物包含層の広がりについて断定は困難である。

図　　版

図版１　下段遺跡　確認調査



下段遺跡　確認調査　１Ｔ　Ⅲ-ａ層上面　遺構検出状況

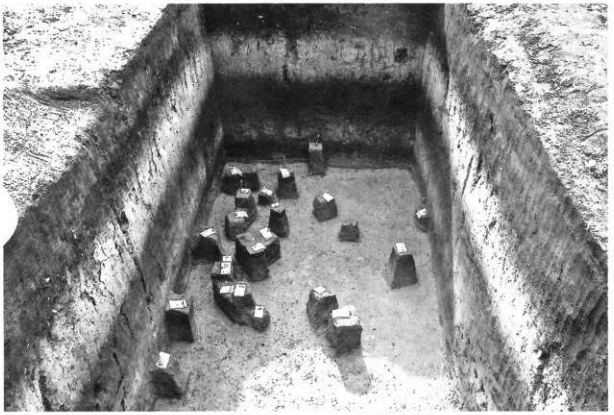
下段遺跡　確認調査　４Ｔ　遺構内遺物出土状況

下段遺跡　確認調査　１Ｔ　Ⅱ層及び遺構内遺物出土状況

下段遺跡　確認調査　４Ｔ　土坑７　遺構検出状況及び土層断面

下段遺跡　確認調査　２Ｔ　西壁土層断面

図版２　和田上遺跡　確認調査

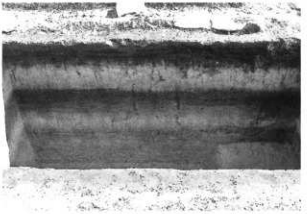


和田上遺跡　確認調査　２Ｔ　ⅩⅡ・ⅩⅢ層　遺物出土状況

和田上遺跡　確認調査　２Ｔ　Ⅹ-ｃ層　遺物出土状況

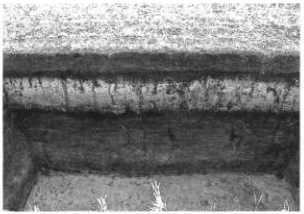
和田上遺跡　確認調査　３Ｔ　炭化物出土状況

和田上遺跡　確認調査　２Ｔ　西壁土層断面



和田上遺跡　確認調査　１Ｔ　南壁土層断面

図版３　井手上Ｂ遺跡・上ノ段Ｅ遺跡　確認調査　他



井手上Ｂ遺跡　確認調査　１Ｔ　南壁土層断面

井手上Ｂ遺跡　確認調査　４Ｔ　南壁土層断面

井手上Ｂ遺跡　確認調査　５Ｔ　西壁土層断面

上ノ段Ｅ遺跡　確認調査　１Ｔ　南壁土層断面

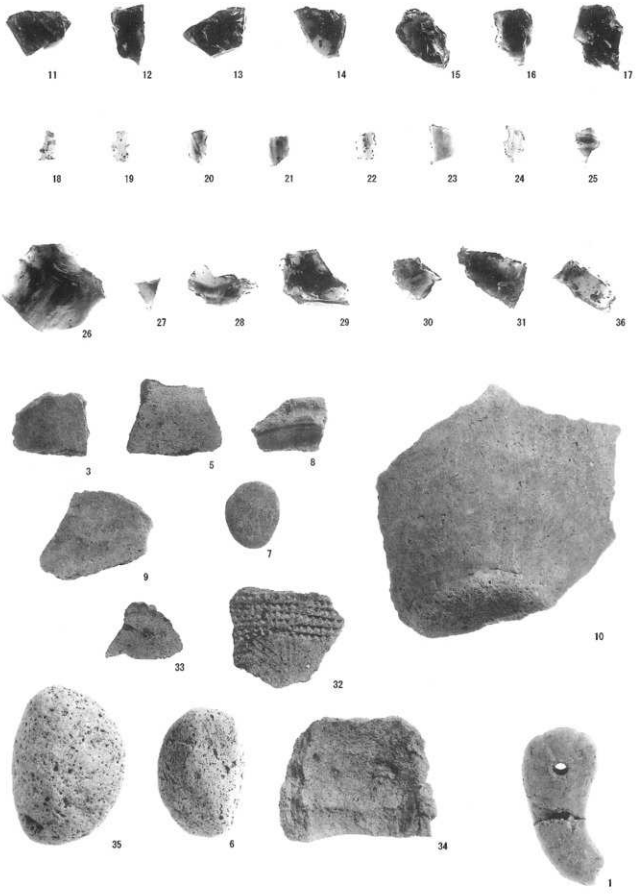
井手上Ｂ遺跡　遠景

和田上遺跡　遠景

下段遺跡　遠景

発掘調査風景

図版４　出土遺物


11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
36
3
5
8
9
7
10
33
32
35
6
34
1

報告書抄録

ふりがな	いでうえびーいせき・うえのだんいーいせき・しもんだんいせき・わだうえいせき
書名	井手上B遺跡・上ノ段E遺跡・下段遺跡・和田上遺跡
副書名	経営体育成基盤整備事業　野井倉下段地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	5
編著者名	出口順一朗・栗川朋枝
編集機関	志布志市教育委員会
所在地	〒899－7192 鹿児島県志布志市志布志町志布志2丁目1番1号　℡.099－472－1111
発行年月日	2010年2月12日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
井手上B遺跡	鹿児島県志布志市 有明町野井倉 字井手上	462217	69-196	31° 29′ 25″	131° 2′ 17″	確認調査 井手上B遺跡 20080820 ～ 20081002	36.5㎡	県営圃場整備事業
上ノ段E遺跡	鹿児島県志布志市 有明町野井倉 字上ノ段	462217	69-195	31° 29′ 29″	131° 2′ 26″	上ノ段E遺跡 20081020 ～ 20081030	8㎡	
下段遺跡	鹿児島県志布志市 有明町野井倉 字下段	462217	69-198	31° 29′ 5″	131° 2′ 30″	下段遺跡 20081015 ～ 20081031	28.5㎡	
和田上遺跡	鹿児島県志布志市 有明町野井倉 字和田上	462217	69-199	31° 29′ 3″	131° 2′ 24″	和田上遺跡 20081015 ～ 20081028	40㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺物	主な遺構	特記事項
井手上B遺跡	散布地		無	無	
上ノ段E遺跡			無	無	
下段遺跡		弥生時代 古墳時代	弥生中期土器 成川式土器	土坑	
和田上遺跡		旧石器時代 縄文時代早期	石核・細石刃核・細石刃・微細剥離痕剥片・作業面再生剥片・剥片 石坂式土器	無	

要約	井手上B遺跡・上ノ段E遺跡：事業対象区域内に遺跡は存在しない。
	下段遺跡：事業対象区域を含む舌状台地の北側末端に弥生時代中期・古墳時代の遺跡が存在する。
	和田上遺跡：事業対象区域を含む舌状台地の北側末端に縄文時代早期・旧石器時代の遺跡が存在する。

終わりに

不惑の年。「四十にして惑わず」と中国の聖人が述べられました。

しかし現実は惑ってばかり。現場運営・調査方法を即断・決定するに当たって、経験不足が目立って焦る。発掘調査にワンパターンはなく、必ず何か新しい発見に直面して、どんな風に調査するのか、その時の状況においてやろうとしていることが最適であるのかを迷い、惑うばかりです。

発掘調査は、探求する事実は古のことですが、いきなり目前の現実に直面し、新しい事実を取り扱うことが多々あります。発掘調査は日進月歩に進化を遂げていることは、周知の事実ですが、担当者として日々の精進と学ぼうとする意欲を絶えずもつことが、目前に直面した新しい現実を、いかに惑わずによりよい方法で記録保存することだと、この頃強く思うのです。

齢を重ねて、体力的にも若年の頃に比べ落ちていますが、精神的には意欲をもって取り組んでいけるように心掛けたい。それが、担当者が、調査の結果として遺跡を破壊する行為を記録保存する形で正当化できる術であり、担当者として任されている責務であると思います。

（J.D）

志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書（5）

井手上B遺跡・上ノ段E遺跡
下段遺跡・和田上遺跡

発行日：２０１０年２月１２日
発　行：鹿児島県志布志市教育委員会
〒899-7192　鹿児島県志布志市志布志町志布志二丁目１番１号
TEL　０９９－４７２－１１１１
印刷所：有限会社　志布志新生社印刷
〒899-7103　鹿児島県志布志市志布志町志布志３２２３－７
TEL　０９９－４７２－２４２２